

第900回宮城県教育委員会定例会日程

日 時：平成29年11月17日（金）午後1時30分から
場 所：県行政庁舎16階 教育委員会会議室

- 1 出席点呼
- 2 開会宣言
- 3 第899回教育委員会会議録の承認について
- 4 第900回教育委員会会議録署名委員の指名
- 5 教育長報告
 - (1) 職員の交通事故に係る和解について (文化財保護課)
- 6 専決処分報告
 - (1) 第362回宮城県議会議案に対する意見について (総務課)
- 7 議 事
 - 第1号議案 職員の人事について (総務課・教職員課)
 - 第2号議案 教育功績者表彰について (教職員課)
 - 第3号議案 平成31年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について (高校教育課)
- 8 課長報告等
 - (1) 第3期「学ぶ土台づくり」推進計画（中間案）について (教育企画室)
 - (2) 東日本大震災に伴う教職員の健康調査（第4回）の結果について (福利課)
 - (3) 平成30年度（平成29年度実施）宮城県公立学校教員採用候補者選考の結果について (教職員課)
 - (4) 平成28年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（宮城県分）の結果（速報値）について (義務教育課・高校教育課)
 - (5) 平成29年度宮城県児童生徒学習意識等調査の結果について (義務教育課)
 - (6) 平成30年度宮城県公立高等学校入学者選抜に係る第1回予備調査の結果について (高校教育課)
 - (7) 平成29年度公立高等学校みやぎ学力状況調査の結果について (高校教育課)
 - (8) 「みやぎ学校安全推進計画」の策定について (スポーツ健康課)
 - (9) はじめよう！「地域学校協働活動」について (生涯学習課)
- 9 資料（配布のみ）
 - (1) 教育庁関連情報一覧 (総務課)
 - (2) 平成30年3月高等学校卒業予定者の就職内定状況（10月末現在）について (高校教育課)
 - (3) 第72回国民体育大会の結果について (スポーツ健康課)
 - (4) MIYAGI 2017 南東北インターハイNEWS 第12号 (全国高校総体推進室)
 - (5) 東日本大震災復興祈念特別展「東大寺と東北」復興を支えた人々の祈り (文化財保護課)
- 10 次回教育委員会の開催日程について
- 11 閉会宣言

職員の交通事故に係る和解について

職員の職務遂行上において発生した交通事故について、和解が成立したので、報告する。

記

1 事故の概要

- (1) 発生日月日
平成29年7月6日（木）午後4時5分ごろ
- (2) 発生場所
青森県八戸市大字糠塚字下道2番地1
八戸市立図書館駐車場内
- (3) 事故の概要
東北歴史博物館職員が、上記事故発生場所において公用車を運転し左折して公道に出る際、側方不注意により市立図書館の境界フェンスに触し、フェンス支柱と車輛後方側部を損傷したもの。

2 和解内容

- (1) 相手の相手方
八戸市長
- (2) 和解の内容
県は相手方に損害賠償額42,768円を支払うこととし、相手方はその余の請求を放棄する。
- (3) 損害賠償額
42,768円
- (4) 知事専決処分年月日
平成29年10月16日

第362回宮城県議会議案に対する意見について

第362回宮城県議会（平成29年11月定例会）に提案される下記議案について、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第29条の規定により知事から意見を求められたので、教育長に対する事務の委任等に関する規則（昭和31年宮城県教育委員会規則第12号）第3条第1項の規定により、平成29年11月15日専決処分し、異議のない旨回答した。

よって同条第2項の規定により報告する。

記

1 予算議案

平成29年度宮城県一般会計補正予算

2 予算外議案

(1) 工事請負変更契約の締結について(宮城県名取高等学校校舎改築工事
(その1))

(1) 工事請負変更契約の締結について(宮城県名取高等学校校舎改築工事
(その2))

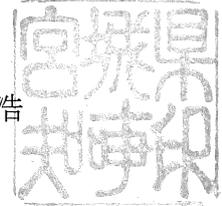
平成29年11月17日提出

宮城県教育委員会教育長 高橋 仁

財 第 1 9 8 号
平成 2 9 年 1 1 月 1 4 日

宮城県教育委員会教育長 殿

宮城県知事 村 井 嘉 浩



第 3 6 2 回宮城県議会議案について (照会)

このことについて、下記議案を提出したいので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律 (昭和 3 1 年法律第 1 6 2 号) 第 2 9 条の規定により、貴委員会の意見を求めます。

記

- 1 予算議案
平成 2 9 年度宮城県一般会計補正予算
- 2 予算外議案
 - (1) 工事請負変更契約の締結について (宮城県名取高等学校校舎改築工事 (その 1))
 - (2) 工事請負変更契約の締結について (宮城県名取高等学校校舎改築工事 (その 2))

29.11.14

第362回宮城県議会（平成29年11月定例会）提出予算議案の概要
～平成29年度11月補正予算の概要（教育庁関係分）～

1 債務負担行為（新規）

単位：千円

区分	事業概要等	期間	限度額
債務負担行為	南部地区職業教育拠点校校舎等基本・実施設計	H29.12～ H32.3 (3カ年)	165,000
	南部地区職業教育拠点校の校舎等基本・実施設計に係るもの		
	美術館常設展展示関連業務委託	H29.12～ H31.3 (2カ年)	2,000
	平成30年度美術館常設展の開催に伴い展示作業等業務（展示作業及び展示装飾業務）について、年度内に契約を締結し、業務完了後に委託料を支払うための経費		
	美術館企画展開催費負担金	H29.12～ H31.3 (2カ年)	25,000
	平成30年度美術館企画展「林 明子 原画展」及び「ディズニー・アート展」の開催に係る基本契約を年度内に締結し、開催負担金を支払うための経費 【開催期間】 林 明子 原画展：H30.4.7～5.27 ディズニー・アート展：H30.6.16～9.30		
	美術館企画展展示関連業務委託	H29.12～ H31.3 (2カ年)	1,000
	平成30年度美術館企画展「林 明子 原画展」の開催に伴い展示装飾業務について、年度内に契約を締結し、業務完了後に委託料を支払うための経費		
美術館企画展観覧料徴収事務委託	H29.12～ H31.3 (2カ年)	4,000	
平成30年度美術館企画展「林 明子 原画展」及び「ディズニー・アート展」の観覧券の販売事務について年度内に契約締結し、業務完了後に事務委託手数料を支払うための経費			
美術館企画展観覧料収入分配金	H29.12～ H31.3 (2カ年)	49,000	
平成30年度美術館企画展「ディズニー・アート展」について、年度内に開催に係る基本契約を締結し、業務完了後に観覧料収入分配金を支払うための経費			

第362回宮城県議会（定例会）提出予算外議案の概要（教育庁分）

議第 258 号議案

工事請負変更契約の締結について（宮城県名取高等学校校舎改築工事（その1））

請負金額 1,176,454,800円 → 1,223,004,960円
契約の相手方 奥田建設株式会社
所管 施設整備課

- 議決日 平成27年10月5日 議第244号議案
- 第一回変更 平成28年2月24日提出 報告第139号
- 第二回変更 平成29年6月16日提出 報告第159号
- 変更の理由 施工内容の変更による請負金額の変更

議第 259 号議案

工事請負変更契約の締結について（宮城県名取高等学校校舎改築工事（その2））

請負金額 1,345,281,480円 → 1,397,934,720円
契約の相手方 奥田建設株式会社
所管 施設整備課

- 議決日 平成27年10月5日 議第245号議案
- 第一回変更 平成28年2月24日提出 報告第140号
- 第二回変更 平成29年6月16日提出 報告第160号
- 変更の理由 施工内容の変更による請負金額の変更

第3号議案

平成31年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について

平成31年度宮城県立高等学校入学者選抜方針を別紙のとおり定める。

平成29年11月17日提出

宮城県教育委員会教育長 高橋 仁

(別紙 1)

平成 3 1 年度宮城県立高等学校入学者選抜方針

宮城県立高等学校における入学者選抜は、高等学校及び中学校における教育の目的の実現及び健全な教育の推進を期し、公正かつ適正な選抜方法と選抜尺度により厳正に行うものとする。

1 基本原則

- (1) 各高等学校長は、その教育を受けるに足る多様な能力と適性等を積極的に評価し、選抜するものとする。
- (2) 出願事務及び選抜事務の厳正を期するため、中学校にあっては調査書等作成のための委員会を、高等学校にあっては選抜のための委員会を設置するものとする。

2 前期選抜

- (1) すべての高等学校は、学校・学科の特色に応じて、前期選抜を実施する。選抜に当たって、高等学校長は、原則として、調査書、その他必要な書類、学校独自検査の結果及び学力検査の結果に基づいて総合的に審査するものとする。各高等学校は、学校独自検査及び学力検査の満点及び総点を適宜定める。
- (2) 学校独自検査
学校独自検査は、面接、実技（体育及び美術に関する学科の場合）及び作文等の中から一つ以上実施する。
- (3) 学力検査
イ 学力検査の実施教科は、国語、数学及び英語とする。
ロ 学力検査の内容は、中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、基礎的・基本的なものを重視するとともに、生徒の多様な能力・適性等が評価できる適切な質と分量の問題になるよう配慮するものとする。

3 後期選抜

- (1) すべての高等学校は、学校・学科の特色に応じて、後期選抜を実施する。選抜に当たって、高等学校長は、原則として、調査書、その他必要な書類及び学力検査の結果に基づいて総合的に審査するものとする。
この場合、次のイ～ハのいずれか一つ又は複数を実施して、その結果を選抜の資料に加えることができる。また、必要に応じて、イ～ハ以外の資料を加えることができる。
イ 面接
ロ 実技（体育及び美術に関する学科の場合）
ハ 一部教科の得点を倍にする等の傾斜配点

(2) 学力検査

イ 学力検査の実施教科は、国語、社会、数学、理科及び英語とする。

ロ 学力検査の内容は、中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、基礎的・基本的なものを重視するとともに、生徒の多様な能力・適性等が評価できる適切な質と分量の問題になるよう配慮するものとする。

4 第二次募集

合格者数が、募集定員に満たない場合においては、第二次募集を行うものとする。選抜に当たって、高等学校長は、調査書のみの審査、あるいは調査書に、第二次募集の学力検査、面接、実技（体育及び美術に関する学科の場合）、作文のいずれか一つ又は複数の結果を合わせた審査を行うことができる。

5 連携型中高一貫教育に関する選抜

連携型中高一貫教育を実施する高等学校は、連携型中高一貫教育を実施する中学校の卒業生を対象とした選抜を実施する。選抜に当たって、当該高等学校長は、原則として、調査書、その他必要な書類、学力検査（前期選抜に準じる。）及び面接等の結果に基づいて総合的に審査するものとする。

6 社会人特別選抜

定時制課程の学科においては、前期選抜において社会人を対象とした選抜を行うことができる。当該高等学校長は、学力検査について、弾力的に対応することができるものとする。

7 通信制課程に関する選抜

当該高等学校長は上記によらず、選抜を行うことができるものとする。

平成31年度宮城県立高等学校入学者選抜日程

前期選抜・連携型中高一貫教育に関する選抜

実施日 平成31年 1月31日(木)

合格発表日 平成31年 2月 8日(金)

後期選抜

実施日 平成31年 3月 6日(水)

合格発表日 平成31年 3月14日(木)

第３期「学ぶ土台づくり」推進計画（中間案）について

1 策定の趣旨

宮城県では、幼児期を「学ぶ土台づくり」の時期として捉え、家庭・幼稚園・保育所等のいずれにおいても充実した幼児教育が行われることを目指し、平成２７年３月に策定した第２期「学ぶ土台づくり」推進計画（以下、「第２期計画」という。）に基づき、各種事業や取組を実施している。

第２期計画が今年度（平成２９年度）で終期を迎えることから、第２期計画の基本的な方向性を継承しつつ、本県の幼児教育を推進していくための新たな指針として、第３期「学ぶ土台づくり」推進計画を策定するもの。

2 計画の策定主体 宮城県、宮城県教育委員会

3 計画の位置付け

「第２期宮城県教育振興基本計画」（平成２９年３月策定）及び「みやぎ子ども・子育て幸福計画第Ⅰ期」（平成２７年３月策定）に基づく幼児教育に関する計画

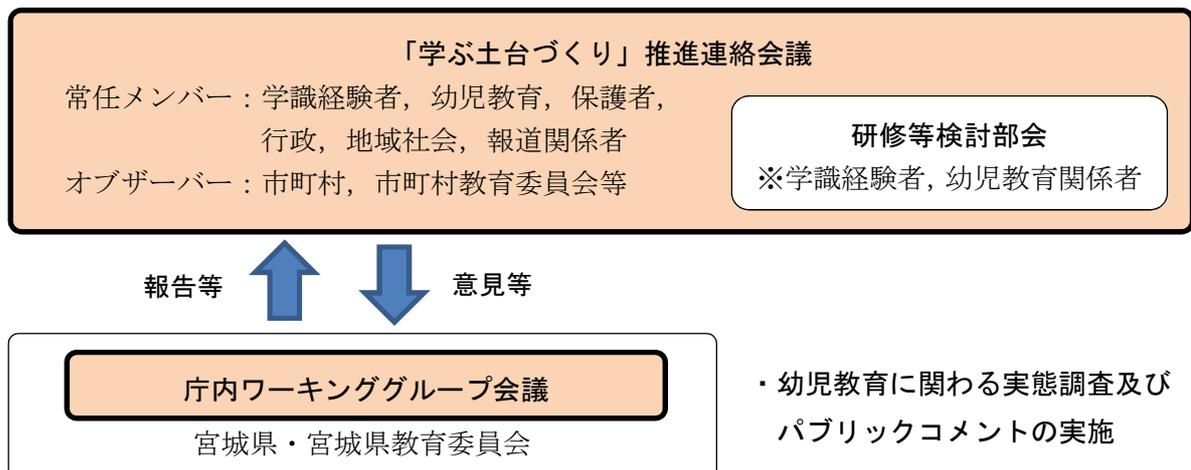
4 計画の期間 平成３０年度から平成３２年度まで（３年間）

5 計画策定の進め方

計画案の策定に当たっては、教育庁及び知事部局の関係課室で構成する庁内ワーキンググループ会議において検討を行った上で、学識経験者等で構成する「学ぶ土台づくり」推進連絡会議において協議等を行う。

あわせて、第２期計画に定めた４つの目標の進捗状況などを把握するため、幼児教育に関わる実態調査（アンケート）を実施（６月）するとともに、県民意見を計画に反映させるため、パブリックコメント（意見募集）を実施（１１月）する。

<参考：体制図>



6 スケジュール（予定）

開催期日	実施内容
平成 29 年 5 月 29 日（月）	第 11 回「学ぶ土台づくり推進連絡会議 ・ 第 3 期「学ぶ土台づくり」推進計画の策定について ・ 第 2 期「学ぶ土台づくり」推進計画の検証等について ・ 「幼児教育に関わる実態調査（アンケート）」について
6 月 23 日～7 月 7 日 「幼児教育に関わる実態調査（アンケート）」の実施	
8 月 7 日（月）	第 12 回「学ぶ土台づくり」推進連絡会議 ・ 「幼児教育に関わる実態調査（アンケート）」の結果について ・ 第 3 期「学ぶ土台づくり」推進計画（素案）について
9 月 25 日（月）	研修等検討部会 ・ 幼稚園教諭及び保育士等の研修について ・ 幼小接続期カリキュラムについて
11 月 17 日（金）	教育委員会定例会 ・ 第 3 期「学ぶ土台づくり」推進計画（中間案）について
11 月 22 日～12 月 21 日 パブリックコメントの実施	
平成 30 年 1 月 29 日（月）	第 13 回「学ぶ土台づくり」推進連絡会議 ・ パブリックコメントの結果について ・ 第 3 期「学ぶ土台づくり」推進計画（最終案）について
3 月下旬	教育委員会定例会 等 ・ 第 3 期「学ぶ土台づくり」推進計画の決定 ⇒ 宮城県議会（文教警察委員会）へ報告

※ 随時、庁内ワーキンググループ会議を開催

7 第3期「学ぶ土台づくり」推進計画（中間案）の構成 ※別添資料1～3参照

第1章 計画の策定に当たって

- 1 幼児教育の経緯・背景
- 2 策定の趣旨
- 3 計画の策定主体
- 4 計画の位置付け
- 5 計画の対象及び幼児教育の定義
- 6 計画の期間

第2章 本県幼児教育の現状

- 1 幼児教育（子供）を取り巻く社会の状況
- 2 第2期「学ぶ土台づくり」推進計画の成果と課題

第3章 本県幼児教育の目指す姿

- 1 目指す子供の姿
- 2 計画の目標
 - 目標1：親子間の愛着形成の促進
 - 目標2：基本的生活習慣の確立
 - 目標3：豊かな体験活動による学びの促進
 - 目標4：幼児教育の充実のための環境づくり

第4章 施策の展開

- 目標1：施策1 親子のかかわりの促進（重点事項）
 - 施策2 親の学びと育ちを支援する環境づくり
- 目標2：施策3 社会総がかりの取組による基本的生活習慣の確立（重点事項）
 - 施策4 体力の向上と食育の推進による望ましい食習慣の確立
 - 施策5 ライフ・ワーク・バランスの促進
- 目標3：施策6 人とかかわる体験の充実（重点事項）
 - 施策7 遊びの環境づくり
- 目標4：施策8 幼児期の教育・保育の質の向上（重点事項）
 - 施策9 保幼小の連携と小学校への円滑な接続（重点事項）
 - 施策10 特別支援教育の推進と理解の促進（重点事項）
 - 施策11 地域における支援体制の充実

第5章 計画の推進

- 1 県民総がかりによる幼児教育の展開
- 2 計画の推進に向けた県の体制等

〈参考〉

平成29年度「学ぶ土台づくり」推進連絡会議常任メンバー名簿

No.	区 分	氏 名	所属団体・役職等	備 考
1	学識経験者	川 島 隆 太	東北大学加齢医学研究所 所長	座 長
2	学識経験者	杉 山 弘 子	尚絅学院大学 総合人間科学部 子ども学科長	研修等検討 部会
3	学識経験者	佐 藤 哲 也	宮城教育大学 教育学部 幼児教育講座 幼小連携推進研究室室長	研修等検討 部会
4	教育現場	松 ヶ 根 幸 子	宮城県国公立幼稚園・こども園協議会副会長 登米市立新田幼稚園長	研修等検討 部会
5	教育現場	吉 岡 弘 宗	宮城県私立幼稚園連合会常任理事 岩切東光第二幼稚園長	研修等検討 部会
6	教育現場	中 鉢 義 徳	宮城県保育協議会会長 あかね保育所長	研修等検討 部会
7	教育現場	新 山 祐 子	宮城県小学校長会理事 大河原町立大河原南小学校長	研修等検討 部会
8	教育現場	我 妻 良 恵	宮城県児童館連絡協議会会長 名取市増田西児童センター所長	
9	家 庭	中 川 奈 緒 美	宮城県私立幼稚園PTA連合会研修部長 上田子幼稚園 PTA 会長	
10	行 政	熊 谷 利 治	気仙沼市教育委員会 学校教育課長	
11	行 政	田 中 眞 由 美	仙台市子供未来局幼稚園・保育部 運営支援課主幹	
12	地域社会	星 美 保	気仙沼市家庭教育推進協議会会長 県社会教育委員	
13	地域社会	お 太 田 昌 浩	早寝・早起き・朝ごはん実行委員会 in 宮城 実行委員長	
14	地域社会	つ 塚 原 俊 也	一般社団法人くりこま高原自然学校 校長	
15	地域社会	伊 勢 み ゆ き	NPO法人まなびのたねネットワーク代表理事 県社会教育委員	
16	報 道	鈴 木 淳	株式会社河北新報社防災・教育室 部長	

第3期「学ぶ土台づくり」推進計画（中間案）の概要

第1章 計画の策定に当たって

- 1 幼児教育の経緯・背景 2 策定の趣旨
- 3 計画の策定主体 ⇒ 宮城県、宮城県教育委員会
- 4 計画の位置付け
⇒ 「第2期宮城県教育振興基本計画」及び「みやぎ子ども・子育て幸福計画第I期」に基づく幼児教育に関する計画
- 5 計画の対象及び幼児教育の定義
⇒ 全ての小学校就学前の子供（乳幼児）を対象
- 6 計画の期間 ⇒ 平成30年度から平成32年度まで（3年間）

第2章 本県幼児教育の現状

- 1 幼児教育（子供）を取り巻く社会の状況
(1) 少子化と核家族化の進行 (2) 親の就労状況の変化
(3) 家庭と地域社会の変化 (4) 子供の育ちの変化
(5) 東日本大震災の影響 (6) 就学前の教育・保育の状況 追加

2 第2期「学ぶ土台づくり」推進計画の成果と課題
〈目標指標の状況〉 ※下線は、目標値を達成しているもの。

No.	目標指標	現況値 (H29)	目標値 (H29)
1	平日、父親が子供とふれあう時間について、1時間位以上と答える保護者の割合	<u>69.2%</u>	55%
2	平日、子供とふれあう内容について「読み聞かせをする」と答える保護者の割合	49.4%	75%
3	生活と親の仕事とバランス（ライフ・ワーク・バランス）が「とれている」等と答える保護者の割合	76.0%	95%
4	親として成長していくための学ぶ機会が「充実していると思う」等と答える保護者の割合	46.1%	50%
5	子供が「午後9時頃までに就寝する」と答える保護者の割合	47.0%	50%
6	基本的な生活習慣の確立に向けた取組を「いつもしている」と答える幼稚園・保育所等の割合	41.9%	55%
7	朝食に、「主食、主菜、副菜、その他」、「主食、主菜、副菜」をそろえると答える保護者の割合	34.9%	45%
8	子供が家で遊ぶとき、「ほとんど室外」、「どちらかといえば室外」と答える保護者の割合	<u>36.8%</u>	30%
9	子供が自然体験活動を「何度も（いつも）している」と答える保護者の割合	22.1%	30%
10	子供が家事・手伝いを「いつもしている」と答える保護者の割合	30.5%	40%
11	居住する地域において、体験活動について参加できるイベントや催しが「ある」等と答える保護者の割合	27.1%	35%
12	遊びの場としてコミュニティ施設を「いつも利用している」等と答える保護者の割合	<u>69.0%</u>	65%
13	小学校との連携を「情報交換」と答える幼稚園と保育所等の割合	62.2%	80%
14	現在の研修状況について、「満足している」等と答える幼稚園教諭、保育士等の割合	79.1%	95%
15	発達障害等について相談したいとき、どこに相談したらよいか「知っている」等と答える保護者の割合	46.3%	65%
16	子育ての悩みについて相談する人がいると答える保護者の割合	97.1%	100%

第3章 本県幼児教育の目指す姿

- 1 目指す子供の姿
元気いっぱい、夢いっぱい、瞳かがやく“みやぎっ子”
～ 遊びや自然・人とのかかわりを通して、豊かな心をはぐくむ ～
- 2 計画の目標
〈目標1：親子間の愛着形成の促進〉 〈目標2：基本的な生活習慣の確立〉 〈目標3：豊かな体験活動による学びの促進〉
〈目標4：幼児教育の充実のための環境づくり〉

第4章 施策の展開

目標1：親子間の愛着形成の促進

- 施策1 親子のかかわりの促進（重点事項）
(1) 親子のかかわりの重要性についての啓発
(2) 親子の共同作業を促す取組
(3) 家庭行事、家事への積極的な参加の促進
(4) 父親の育児参加の促進

- 施策2 親の学びと育ちを支援する環境づくり
(1) 親自身の学びの機会の提供
(2) 社会全体による子育て支援
(3) 将来の「親」育て

目標2：基本的な生活習慣の確立

- 施策3 社会総がかりの取組による基本的な生活習慣の確立（重点事項）
(1) “はやね・はやおき・あさごはん”の励行
(2) 生活習慣づくりに関する家庭支援の充実

- 施策4 体力の向上と食育の推進による望ましい食習慣の確立
(1) 外遊び等のすすめと運動習慣の定着促進
(2) 食育の推進

- 施策5 ライフ・ワーク・バランスの促進
(1) ライフ・ワーク・バランスを意識した子育て支援の啓発

目標3：豊かな体験活動による学びの促進

- 施策6 人とかかわる体験の充実（重点事項）
組替
(1) 親子体験活動の機会の拡充と場の提供
(2) 体験活動等の情報提供（自然体験交流活動など）
(3) 多様な人とかかわる遊びや交流の促進
(4) 伝承遊びの普及を通じた地域の人とかわる機会の提供

- 施策7 遊びの環境づくり
(1) 安全・安心の遊び場づくり
(2) 遊びの大切さの啓発 追加

目標4：幼児教育の充実のための環境づくり

- 施策8 幼児期の教育・保育の質の向上（重点事項） 追加
(1) 幼稚園教諭・保育士・保育教諭等の資質及び専門性の向上
(2) 幼児教育の推進に向けた体制づくり

- 施策10 特別支援教育の推進と理解の促進（重点事項）
(1) 特別な支援を必要とする子供の早期発見のためのシステムづくり
(2) 特別な支援を必要とする子供への適切な支援

- 施策9 保幼小の連携と小学校への円滑な接続（重点事項）
(1) 学びの連続性を踏まえた取組の推進
(2) 幼小接続期カリキュラムの普及促進 追加

- 施策11 地域における支援体制の充実
(1) 地域資源・人材の活用とネットワークづくり
(2) NPO等との協働

第5章 計画の推進

- 1 県民総がかりによる幼児教育の展開
〈各主体に期待される役割〉
- 2 計画の推進に向けた県の体制等

〈各主体に期待される役割〉

- 家庭 ⇒ 教育の基盤は家庭であることを認識し、主体的に子供の教育を行う。地域社会、教育現場、行政と連携し、家庭の教育力の向上に努める。
- 地域社会 ⇒ 「地域の子供は地域で育てる」との視点に立ち、地域の教育力の向上に努める。
- 教育現場 ⇒ 幼児教育を担う役割の重要性を認識し、幼児教育の質の向上に努める。
- 行政 ⇒ 幼児教育の重要性について広く周知を図るとともに、関係団体等と連携・調整の上、様々な施策を展開し、幼児教育の一層の充実に努める。

第3期「学ぶ土台づくり」推進計画体系（案）

第3期「学ぶ土台づくり」推進計画（中間案）	第2期「学ぶ土台づくり」推進計画
<p>＜目指す子供の姿＞</p> <p>元気いっぱい、夢いっぱい、瞳かがやく“みやぎっ子” ～ 遊びや自然・人とかかわりを通して、豊かな心をはぐくむ ～</p>	
<p>＜目標1＞ 親子間の愛着形成の促進</p>	
<p>施策1 親子のかかわりの促進（重点事項）</p> <p>(1) 親子のかかわりの重要性についての啓発</p> <p>(2) 親子の共同作業を促す取組</p> <p>(3) 家族行事、家事への積極的な参加の促進</p> <p>(4) 父親の育児参加の促進</p> <p>施策2 親の学びと育ちを支援する環境づくり</p> <p>(1) 親自身の学びの機会の提供</p> <p>(2) 社会全体による家庭への支援</p> <p>(3) 将来の「親」育て</p>	<p>施策1 親子のかかわりの促進（重点事項）</p> <p>(1) 親子のかかわりの重要性についての啓発</p> <p>(2) 親子の共同作業を促す取組</p> <p>(3) 家族行事、家事への積極的な参加</p> <p>(4) 父親の育児参加の促進</p> <p>施策2 親の育ちを支援する環境づくり</p> <p>(1) 親自身の学びの機会の提供</p> <p>(2) 社会全体による家庭への支援</p> <p>(3) 将来の「親」育て</p>
<p>＜目標2＞ 基本的生活習慣の確立</p>	
<p>施策3 社会総がかりの取組による基本的生活習慣の確立（重点事項）</p> <p>(1) “はやね・はやおき・あさごはん”の励行</p> <p>(2) 生活習慣づくりに関する家庭支援の充実</p> <p>施策4 体力の向上と食育の推進による望ましい食習慣の確立</p> <p>(1) 外遊び等のすすめと運動習慣の定着促進</p> <p>(2) 食育の推進</p> <p>施策5 ライフ・ワーク・バランスの促進</p> <p>(1) ライフ・ワーク・バランスを意識した子育て支援の啓発</p>	<p>施策3 社会総がかりの取組による基本的生活習慣の確立（重点事項）</p> <p>(1) “はやね・はやおき・あさごはん”の励行</p> <p>(2) 生活習慣づくりに関する家庭支援の充実</p> <p>施策4 体力の向上と食育の推進による望ましい食習慣の確立</p> <p>(1) 外遊び等のすすめと運動習慣の定着促進</p> <p>(2) 食育の推進</p> <p>施策5 ライフ・ワーク・バランスの促進</p> <p>(1) ライフ・ワーク・バランスを意識した子育て支援の啓発</p>
<p>＜目標3＞ 豊かな体験活動による学びの促進</p>	
<p>施策6 人とかかわる体験の充実（重点事項）</p> <p>(1) 親子体験活動の機会の拡充と場の提供</p> <p>(2) 体験活動等の情報提供（自然体験交流活動など）</p> <p>(3) 多様な人とかかわる遊びや交流の促進</p> <p>(4) 伝承遊びの普及を通じた地域の人とかかわる機会の提供</p> <p>施策7 遊びの環境づくり</p> <p>(1) 安全・安心の遊び場づくり</p> <p>(2) 遊びの大切さの啓発</p>	<p>施策6 人とかかわる体験の充実（重点事項）</p> <p>(1) 親子参加プログラム及び情報の提供（自然体験交流活動など）</p> <p>(2) 「何も(し)ない（能動的活動を促す取組）」体験プログラムの提供</p> <p>(3) 地域資源・人材の活用とネットワークづくり</p> <p>(4) 異世代・異年齢交流の促進</p> <p>(5) 伝承遊びの普及を通じた地域の人とかかわる機会の提供</p> <p>施策7 遊びの環境づくり</p> <p>(1) 安全・安心の遊び場づくり</p>
<p>＜目標4＞ 幼児教育の充実のための環境づくり</p>	
<p>施策8 幼児期の教育・保育の質の向上（重点事項）</p> <p>(1) 幼稚園教諭・保育士・保育教諭等の資質及び専門性の向上</p> <p>(2) 幼児教育の推進に向けた体制づくり</p> <p>施策9 保幼小の連携と小学校への円滑な接続（重点事項）</p> <p>(1) 学びの連続性を踏まえた取組の推進</p> <p>(2) 幼小接続期カリキュラムの普及促進</p> <p>施策10 特別支援教育の推進と理解の促進（重点事項）</p> <p>(1) 特別な支援を必要とする子供の早期発見のためのシステムづくり</p> <p>(2) 特別な支援を必要とする子供への適切な支援</p> <p>施策11 地域における支援体制の充実</p> <p>(1) 地域資源・人材の活用とネットワークづくり</p> <p>(2) NPO等との協働</p>	<p>施策8 幼・保・小の連携と小学校への円滑な接続（重点事項）</p> <p>(1) 運営協議会などの体制整備</p> <p>(2) シンポジウム・ワークショップ開催による啓発</p> <p>(3) 就学前の相互交流</p> <p>(4) 幼保一体化に関する情報収集</p> <p>(5) 研修の充実</p> <p>(6) 上級免許・資格の取得と免許・資格の併有促進</p> <p>施策9 特別支援教育の推進と理解の促進（重点事項）</p> <p>(1) 特別な支援を必要とする子どもの早期発見のためのシステムづくり</p> <p>(2) 特別な支援を必要とする子どもへの対応</p> <p>施策10 地域における支援体制の充実</p> <p>(1) 地域における教育ネットワークの整備</p> <p>(2) NPOとの協働</p>

東日本大震災に伴う教職員の健康調査（第4回）の結果について

1 目的

東日本大震災に伴う教職員のメンタルヘルスケア対策の一環として、教職員が自らの健康状態を把握し、セルフケアに努めるように啓発するとともに、心身の不調を早期に発見し、早期治療を促すことにより、教職員の健康保持に努める。

2 調査概要

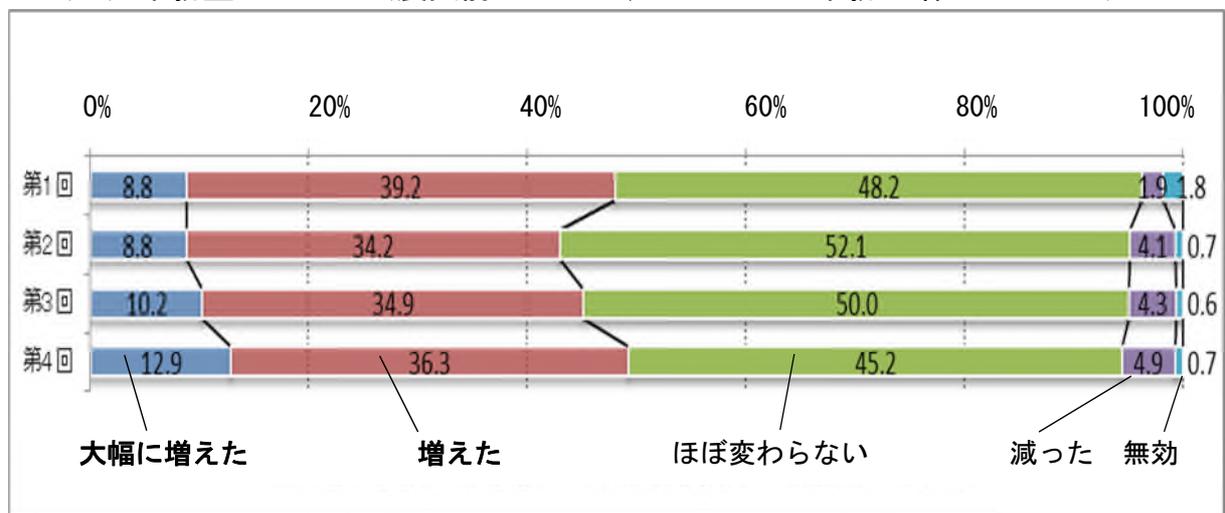
平成23年12月から隔年で実施し、本年6月に第4回目の調査を実施した。

- (1) 対象者 全教職員（18,764人）〔公立学校共済組合員〕
幼稚園、小学校、中学校、高等学校、支援学校、事務局等
- (2) 調査期間 平成29年6月16日から6月23日まで
- (3) 実施方法 健康調査票により個人ごと回答をうけ集計。
「精神健康全般に関するチェック」「仕事に関するチェック（バーンアウトチェック）」については、個人あて結果を送付。
- (4) 調査項目 業務量、健康状態、メンタルヘルスの状況など
- (5) 回答状況

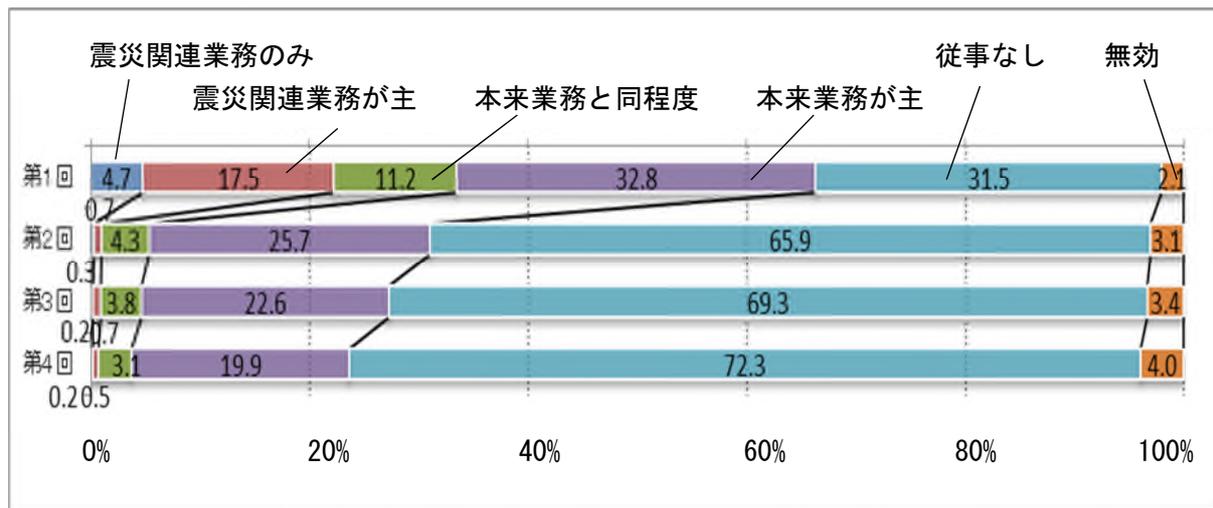
	調査期間	対象者数	回答者数	回答率
第1回	H23. 11. 30 ～12. 6	19,046人	16,981人	89.2%
第2回	H25. 6. 21 ～ 6. 28	18,872人	16,113人	85.4%
第3回	H27. 6. 19 ～ 6. 26	18,859人	15,884人	84.2%
第4回	H29. 6. 16 ～ 6. 23	18,764人	15,898人	84.7%

3 調査結果の概要

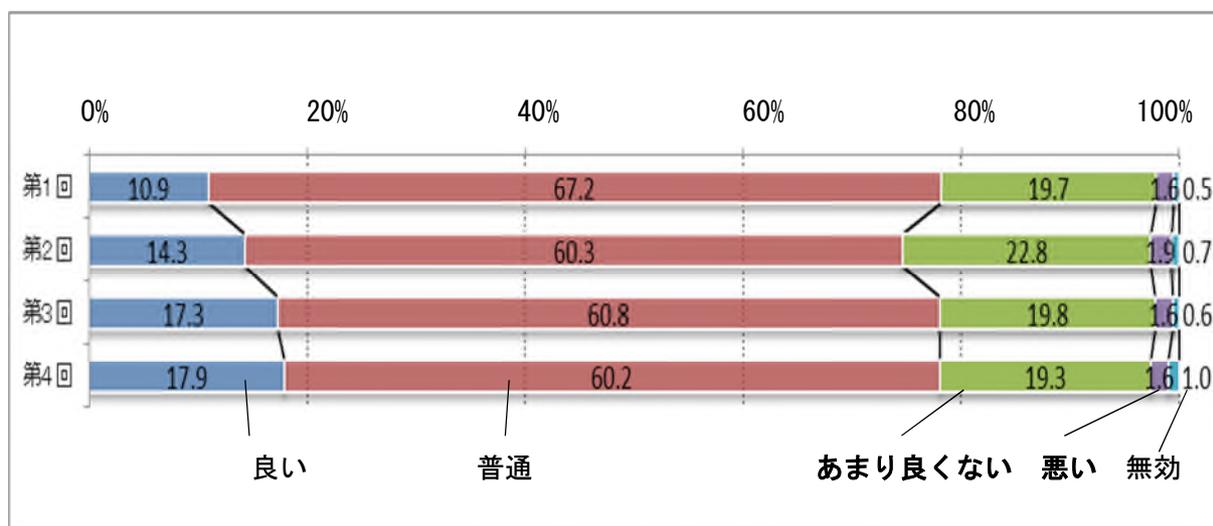
(1) 業務量について（震災前と比べて、どのくらい業務が増えましたか）



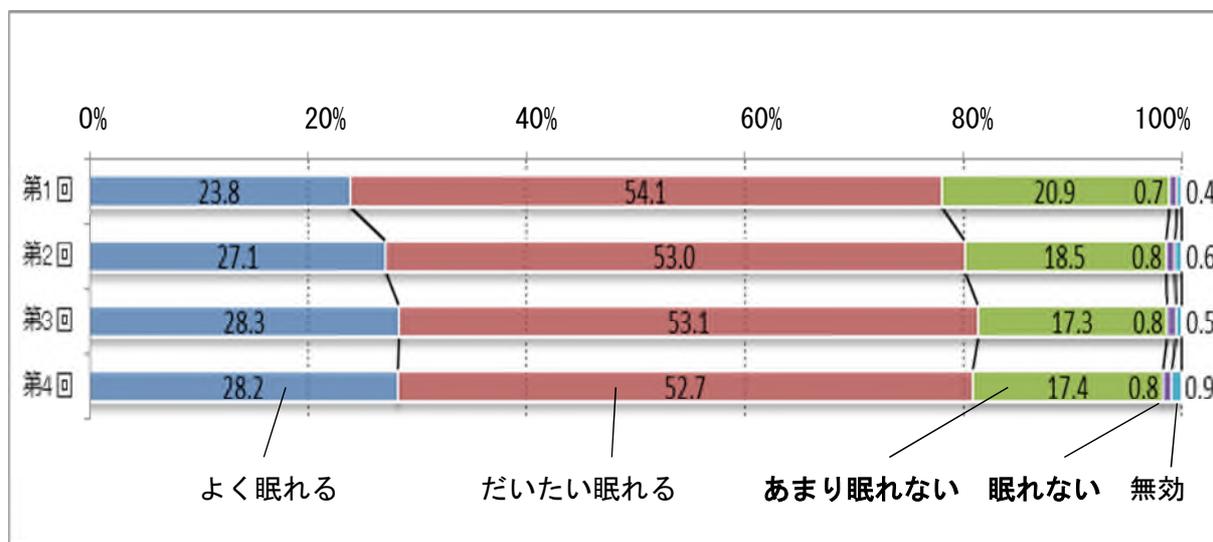
(1-2) 震災関連業務の従事状況について



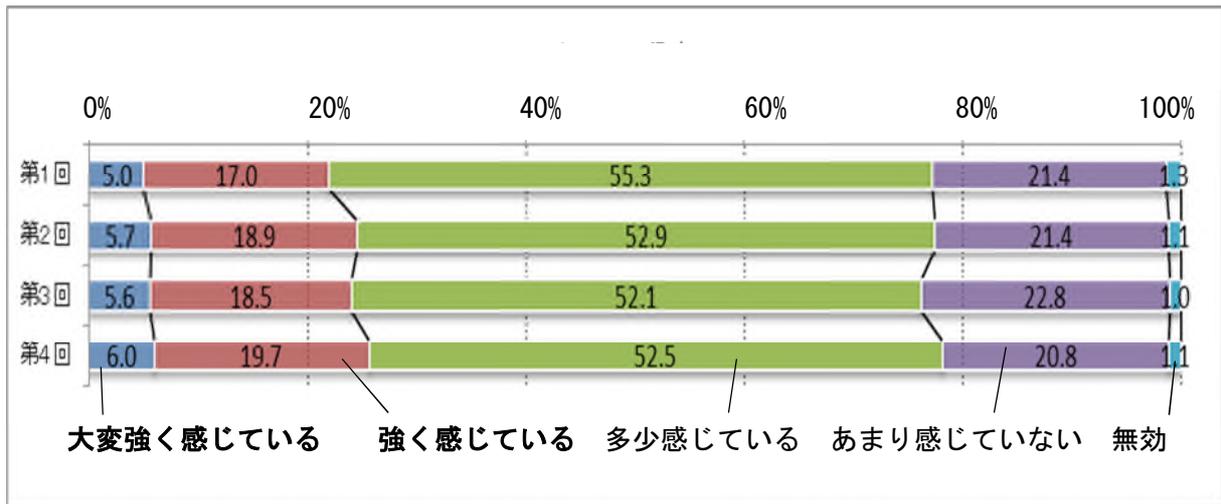
(2) 体調について



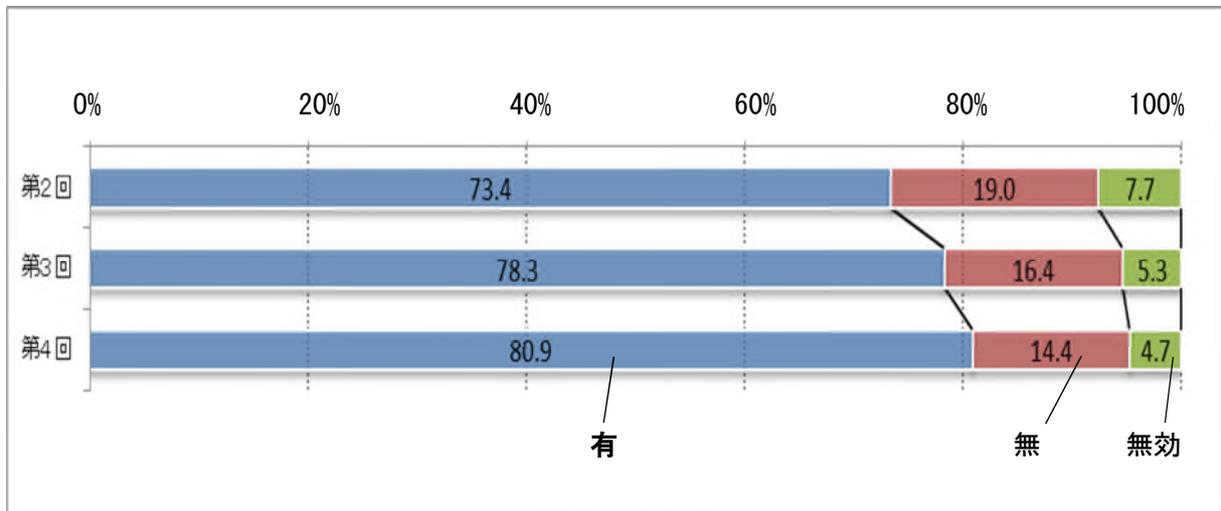
(3) 睡眠について



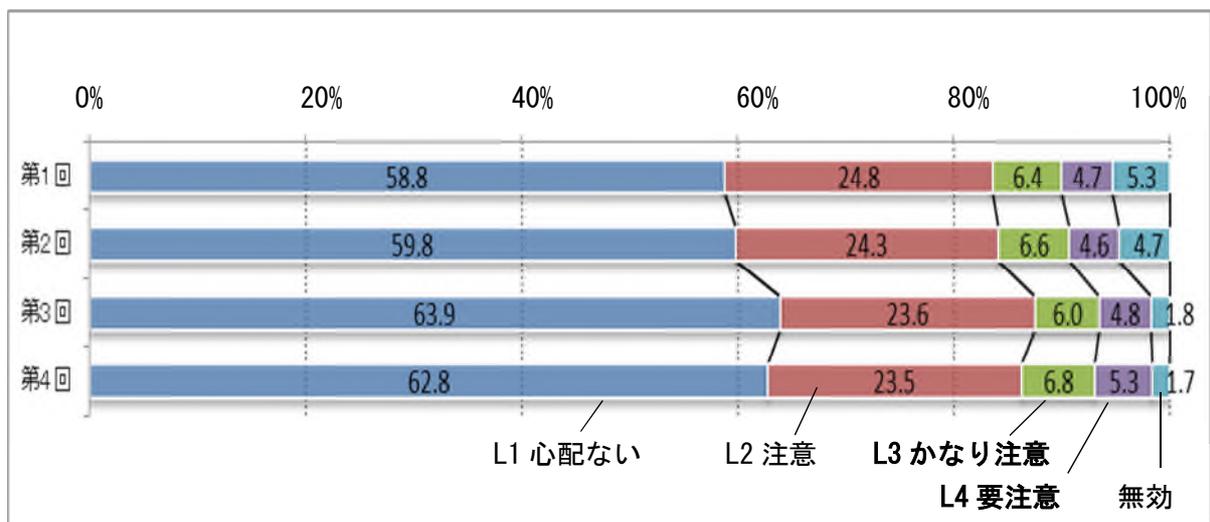
(4) ストレスの程度



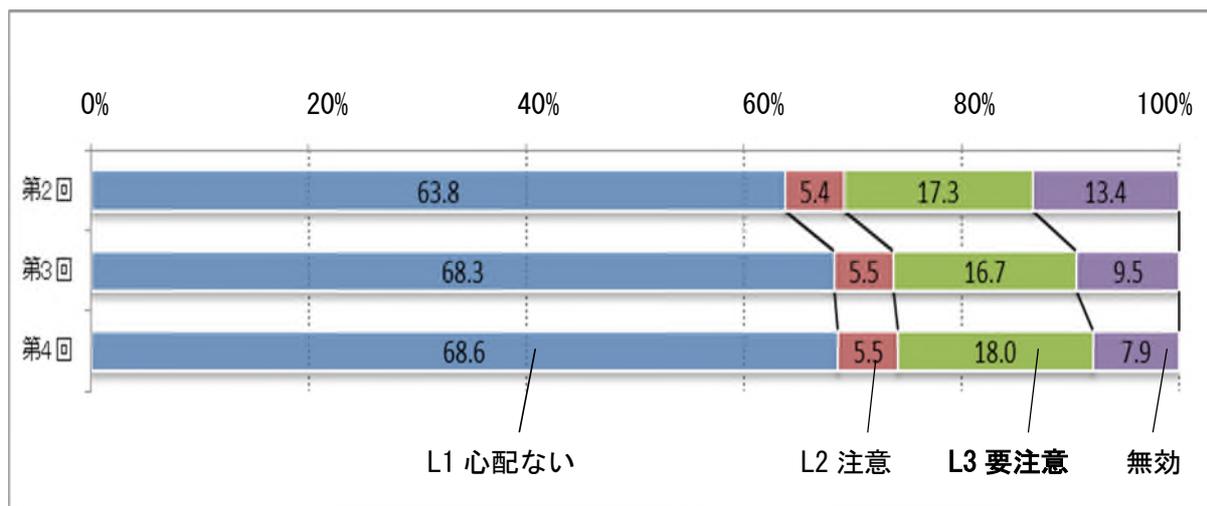
(5) 仕事について（この一年間で楽しい・嬉しいと感じたことがありますか）



(6) 精神健康全般に関するチェック



(7) 仕事に関するチェック（バーンアウトチェック）



4 結果概要一覧

結果概要		第1回	第2回	第3回	第4回
(1) 業務量について 「震災前よりも大幅に増えた」 + 「震災前よりも増えた」	%	48.1	43.0	45.1	49.2
	人	8,163	6,274	6,082	5,682
(2) 体調について 「あまり良くない」 + 「悪い」	%	21.3	24.7	21.4	20.9
	人	3,621	3,975	3,396	3,337
(3) 睡眠について 「あまり眠れない」 + 「眠れない」	%	21.6	19.3	18.1	18.2
	人	3,671	3,111	2,873	2,889
(4) ストレスの程度 「大変強く」 + 「強く感じている」	%	22.0	24.6	24.1	25.7
	人	3,741	3,959	3,824	4,077
(5) 仕事について「この1年間、楽しい、 嬉しいと感じたことがある」	%	—	73.4	78.3	80.9
	人	—	11,824	12,438	12,860
(6) 精神健康全般に関するチェック L3 かなり注意が必要	%	6.4	6.6	6.0	6.8
	人	1,092	1,071	949	1,074
L4 要注意	%	4.7	4.6	4.8	5.3
	人	790	743	761	839
(7) 仕事に関するチェック L2 注意（セルフケアが必要）	%	—	5.4	5.5	5.5
	人	—	876	866	879
L3 要注意（専門機関のケアが必要）	%	—	17.3	16.7	18.0
	人	—	2,794	2,660	2,856

※ 前回調査より数値が高くなったものは、**太字**で表記。

※ (1) 業務量は、震災後に採用された教職員等は除く。

平成30年度（平成29年度実施）宮城県公立学校教員採用候補者選考の結果について

1 実施概況

(1) 第1次選考

- 実施日 平成29年7月22日（土）
- 会場 筆記試験は高校3校，東京海洋大学

(2) 第2次選考

- 実施日 平成29年9月11日（月）～16日（土）※16日（土）は実技試験
- 会場 宮城県総合教育センター・名取北高等学校（16日のみ）

	出願者数	受験者数（受験率）	1次合格者数	2次受験者数（受験率）
30年度	2,664	2,447 (91.9%)	985	953 (96.8%)
29年度	3,354	3,062 (91.3%)	1,124	1,101 (98.0%)
対前年比	-690	-615 (0.6)	-139	-148 (-1.2)

※30年度の数値については、宮城県単独で採用選考を行った数値。29年度は仙台市と共同実施を行った数値。

2 今年度選考試験の特徴

- 宮城県が単独実施初年度。第1次選考では、筆記試験をマークシート方式に変更し、小学校に、地域枠，特別支援学校枠，英語枠を新設し，第1次選考と第2次選考に分けて実施していた実技試験をすべて第2次選考で実施した。
- 第1次選考で基礎的な能力実証をした上で，第2次選考において，宮城県が求める人材に照らして，人物重視の選考を行った。
- 「志教育」への取組を推進できる人材，また，宮城県における教育諸課題に対応できる人材を数多く名簿登載した。
- 名簿登載者数は403名（仙台市と共同実施で昨年度569名，一昨年度652名）。名簿登載者数に占める他県現職の割合は7.7%（昨年度6.3%），講師経験者の割合は25.1%（昨年度18.6%）である。また名簿登載者の男女比は男47.1%と女52.9%（昨年度53.1%より女性の割合が0.2ポイント減少）。
- 大学院進学・在籍者の名簿登載猶予予定者は12名（昨年度16名）である。

3 今後の取組

- 宮城県の教職員を目指す方の一助となる情報をホームページで発信（広報活動）
宮城県内の各教育事務所のイメージが感じられるPR動画を及び，チーム学校を支えている職員からのメッセージ動画を掲載したサイトを作成しHPより定期的に配信。
- 平成31年度宮城県公立学校教員採用候補者選考説明会
仙台会場 平成29年12月9日（土）午後 会場 県庁講堂
東京会場 平成29年12月10日（日）午前・午後2回 会場，東京海洋大学
- 平成30年4月の新規採用予定者に対し，情報交換会を開催する。
期日・会場 平成29年12月25日（月）13時から 宮城県総合教育センター
内容 全体会（講話），分科会（校種別情報交換会）

平成30年度宮城県公立学校教員採用候補者 第2次選考結果

校種・職種	教科等	平成30年度			平成29年度		
		1次受験者	2次受験者	名簿登載者	1次受験者	2次受験者	名簿登載者
小学校	地域枠	73	17	5	枠設定なし		
	特別支援学校枠	108	20	10			
	英語枠	27	15	11			
	一般枠	439	325	150			
	小計	647	377	176			
中学校	国語	74	38	20	104	40	21
	社会	162	32	16	224	34	18
	数学	128	44	17	176	37	22
	理科	70	36	17	93	37	21
	技術	14	7	1	22	14	7
	英語	107	39	12	147	39	22
	小計	555	196	83	766	201	111
中・高	保体	314	60	21	321	53	35
	音楽	46	20	11	66	23	12
	美術	45	14	5	59	16	6
	家庭	23	12	5	34	18	12
	小計	428	106	42	480	110	65
高校	国語	74	36	16	72	27	14
	公民	60	16	6	45	18	6
	地歴	83	15	4	88	18	4
	数学	115	22	5	107	26	13
	理科	98	36	9	114	38	8
	農業	15	9	3	13	8	3
	水産	出願なし			1	1	1
	工業	40	26	7	43	18	7
	商業	24	15	5	36	12	6
	情報	30	13	3	募集せず		
	英語	79	25	11	87	33	15
	看護	募集せず			募集せず		
	理療	募集せず			募集せず		
福祉	13	5	1	11	6	2	
小計	631	218	70	617	205	79	
養護教諭		154	39	21	232	39	31
栄養教諭	栄養教諭A	8	8	7	11	10	8
	栄養教諭B	24	9	4	37	7	4
	小計	32	17	11	48	17	12
合計		2,447	953	403	3,062	1,101	569

平成28年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査 （宮城県分）の結果（速報値）について

◇文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」結果（速報値）による
〔平成29年10月26日公表〕

1 調査の趣旨

児童生徒の問題行動等について、全国の状況を調査・分析することにより、教育現場における生徒指導上の取組のより一層の充実に資するとともに、本調査を通じて、実態把握を行うことにより、児童生徒の問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応につなげていくものとする。

2 調査対象期間

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

3 調査対象（平成28年5月1日現在）

- 国公立小・中学校・高等学校・特別支援学校及び中等教育学校在籍児童生徒（仙台市含む）
 - ・ 小学校399校(児童数118,203人)
 - ・ 中学校215校(生徒数63,405人)
 - ・ 高等学校106校(生徒数61,734人)
 - ・ 特別支援学校25校(児童生徒数2,528人)※いじめのみ

4 調査結果の概要

(1) 暴力行為

- 小・中・高等学校における、暴力行為の発生件数は1,226件（全国59,457件）であり、児童生徒1,000人当たりの発生件数は5.0件（全国4.4件）である。
- 小学校は、発生件数、発生学校数、加害児童数ともに増加している。また、生徒間暴力、器物損壊は増加したが、対教師暴力は減少傾向にある。
- 中学校は、加害生徒数が減少したものの、発生件数、発生学校数は増加している。特に、生徒間暴力が大きく増加している。
- 高等学校は、器物損壊の増加により、発生件数が増加している。

① 発生件数・発生学校数・加害児童生徒数

種別	小学校			中学校			高等学校		
	H28	H27	前年度比較	H28	H27	前年度比較	H28	H27	前年度比較
発生件数(件)	443	387	+56	626	582	+44	157	129	+28
発生学校数(校)	84	83	+1	125	111	+14	47	56	-9
加害児童生徒数(人)	316	254	+62	586	644	-58	146	139	+7

② 形態別発生状況

種別	小学校			中学校			高等学校		
	H28	H27	前年度比較	H28	H27	前年度比較	H28	H27	前年度比較
対教師暴力(件)	111	140	-29	57	59	-2	11	5	+6
生徒間暴力(件)	269	219	+50	418	361	+57	82	83	-1
対人暴力(件)	1	2	-1	15	19	-4	5	5	±0
器物損壊(件)	62	26	+36	136	143	-7	59	36	+23
計	443	387	+56	626	582	+44	157	129	+28

(2) いじめ

① いじめ認知件数・解消率・認知校数

- 小・中・高等学校及び特別支援学校におけるいじめの認知件数は19,288件（全国323,808件）と前年度より1,580件増加しており，児童生徒1,000人当たりの認知件数は77.9件（全国23.9件）である。
- 認知件数は，小・中学校において増加しており，認知校数は，小・中・高等学校で増加傾向にある。
- 全ての校種で，都市部と郡部，沿岸部と内陸部等の地域的な特徴は認められない。
- 全ての校種で解消率が低下している。

種別	小学校		
	H28	H27	前年度比較
認知件数 (件)	15,840	14,613	+1,227
解消率 (%)	93.6	99.6	-6.0
認知校数 (校)	307	285	+22

種別	中学校		
	H28	H27	前年度比較
認知件数 (件)	3,161	2,782	+379
解消率 (%)	92.8	98.7	-5.9
認知校数 (校)	182	176	+6

種別	高等学校		
	H28	H27	前年度比較
認知件数 (件)	280	303	-23
解消率 (%)	84.6	95.4	-10.8
認知校数 (校)	74	73	+1

種別	特別支援学校		
	H28	H27	前年度比較
認知件数 (件)	7	10	-3
解消率 (%)	85.7	100	-14.3
認知校数 (校)	5	5	±0

② いじめの態様

- 小・中・高等学校では，「冷やかしゃからかい等」が最も多い。次いで小学校では「軽くぶつかられたり，叩かれたり等」，中学校では「仲間はずれ，集団による無視」，高等学校では「パソコンや携帯電話等で誹謗中傷」が多かった。特別支援学校では，「軽くぶつかられたり，叩かれたり等」が多い。

〈小学校〉

(複数回答 上位5件)

種別	H28		H27		前年度比較	
	(件)	(%)	(件)	(%)	(件)	ポイント
1 冷やかしゃからかい等	9,332	58.9	8,848	60.5	+484	-1.6
2 軽くぶつかられたり，叩かれたり等	4,858	30.7	4,559	31.2	+299	-0.5
3 仲間はずれ，集団による無視	3,105	19.6	3,448	23.6	-343	-4.0
4 金品をかくされたり壊されたり等	1,720	10.9	1,615	11.1	+105	-0.2
5 嫌なことや恥ずかしいこと等	1,568	9.9	1,291	8.6	+277	+1.3

〈中学校〉

(複数回答 上位5件)

種別	H28		H27		前年度比較	
	(件)	(%)	(件)	(%)	(件)	ポイント
1 冷やかしゃからかい等	2,199	69.6	2,017	72.5	+182	-2.9
2 仲間はずれ，集団による無視	551	17.4	502	18.0	+49	-0.6
3 軽くぶつかられたり，叩かれたり等	491	15.5	478	17.2	+13	-1.7
4 パソコンや携帯電話等で誹謗中傷	225	7.1	154	5.6	+71	+1.5
5 金品をかくされたり壊されたり等	157	5.0	114	4.1	+43	+0.9

〈高等学校〉

(複数回答 上位4件)

種別	H28		H27		前年度比較	
	(件)	(%)	(件)	(%)	(件)	ポイント
1 冷やかしゃからかい等	167	59.6	188	62.0	-21	-2.4
2 パソコンや携帯電話等で誹謗中傷	37	13.2	38	12.5	-1	+0.7
3 軽くぶつかられたり，叩かれたり等	30	10.7	32	10.6	-2	+0.1
4 仲間はずれ，集団による無視	25	8.9	35	11.6	-10	-2.7

〈特別支援学校〉

(複数回答 上位2件)

種別	H28		H27		前年度比較	
	(件)	(%)	(件)	(%)	(件)	ポイント
1 軽くぶつかられたり，叩かれたり等	3	42.9	3	30.0	±0	+12.9
2 冷やかしゃからかい等	2	28.6	8	80.0	-6	-51.4
金品をかくされたり壊されたり等	2	28.6	0	0	±0	+28.6

(3) 小・中学校の長期欠席（不登校等）

- 不登校出現率は、小学校0.52%（全国0.48%）、中学校4.08%（全国3.01%）となり、依然として高水準で推移している。1,000人当たりの不登校児童生徒数は、17.6人（全国13.5人）である。
- 不登校児童生徒の中で、90日以上欠席者の割合は55.6%（全国57.6%）である。
- 出席日数0日の児童生徒は、不登校児童生徒の3.1%（全国3.7%）である。
- 再登校率は、小学校が40.3%（全国28.9%）、中学校が32.4%（全国27.8%）であり、小・中学校ともに全国より高い。
- 小・中学校で、都市部と郡部、沿岸部と内陸部等の地域的な特徴は認められない。
- 不登校の要因を「本人に係る要因」で見ると、小学校は、「『不安』の傾向がある」が、中学校は「『無気力』の傾向がある」が最も多かった。

※不登校出現率：在籍児童生徒数に対する不登校児童生徒数の割合

※再登校率：不登校児童生徒数に対する年度内に学校に登校できるようになった児童生徒の割合

① 理由別長期欠席者数

〈小学校〉

(人)

区分	在籍児童数 ①	理由別長期欠席者数					長期欠席総数	不登校出現率 (%) ④÷①	再登校率 (%)
		病気 ②	経済的理由 ③	不登校 ④	その他 ⑤	うち、 不登校の 要因を 含む			
H28	118,203	431	0	611	193	66	1,235	0.52	40.3
H27	119,806	360	0	564	114	25	1,038	0.47	28.0
前年度比較	-1,603	+71	±0	+47	+79	+41	+197	+0.05	+12.3

〈中学校〉

(人)

区分	在籍生徒数 ①	理由別長期欠席者数					長期欠席総数	不登校出現率 (%) ④÷①	再登校率 (%)
		病気 ②	経済的理由 ③	不登校 ④	その他 ⑤	うち、 不登校の 要因を 含む			
H28	63,405	323	0	2,588	118	53	3,029	4.08	32.4
H27	64,320	323	0	2,269	115	46	2,707	3.53	29.8
前年度比較	-915	±0	±0	+319	+3	+7	+322	+0.55	+2.6

② 不登校の内訳

(人)

区分	不登校児童生徒数	内 訳							
		欠席日数30～89日の者		欠席日数90日以上で 出席日数11日以上の方		欠席日数90日以上で 出席日数1～10日の者		欠席日数90日以上で 出席日数0日の者	
小学校	611	347	56.8%	234	38.3%	23	3.8%	7	1.1%
中学校	2,588	1,072	41.4%	1,254	48.5%	171	6.6%	91	3.5%
合計	3,199	1,419	44.4%	1,488	46.5%	194	6.1%	98	3.1%

③ 不登校の要因

(人)

本人に係る要因	小学校	中学校
「不安」の傾向がある	196	687
「無気力」の傾向がある	161	691
「学校における人間関係」に課題を抱えている	94	635
「あそび・非行」の傾向がある	3	67
「その他」（理由がはっきりしない等）	157	508
合計	611	2,588

(4) 高等学校の不登校・中途退学

- 高等学校の不登校出現率は2.13%（全国 1.47%）であり、不登校の要因は「『無気力』の傾向がある」等が多い。
- 高等学校の中途退学率は1.7%（全国 1.4%）であり、中途退学の事由は「進路変更」が最も多く、次いで「学校生活・学業不適應」が多い。

① 不登校

〈在籍学校数・不登校生徒数・不登校出現率・再登校率〉

種別	校種	高等学校		
		H28	H27	前年度比較
在籍学校数(校)		98	98	±0
不登校生徒数(人)		1,315	1,353	-38
不登校出現率(%)		2.13	2.19	-0.06
再登校率(%)	県	26.5	33.9	-7.4
	全国	35.8	39.2	-3.4

〈不登校の要因〉

(人)

本人に係る要因	高等学校
「無気力」の傾向がある	551
「不安」の傾向がある	318
「学校における人間関係」に課題を抱えている	207
「あそび・非行」の傾向がある	99
「その他」(理由がはっきりしない等)	140

② 中途退学

〈中途退学者数及び中途退学率〉

	高等学校		
	H28	H27	前年度比較
中途退学者(人)	1,106	1,040	+66
中途退学率(%)	1.7	1.6	+0.1

〈事由別中途退学者数の構成比〉

		高等学校		
		H28	H27	前年度比較
1	進路変更	32.1	28.4	+3.7
2	学校生活・学業不適應	29.6	36.2	-6.6

5 県教委としての対応

暴力行為については、一部の地域や学校で増加が見られることから、学校を支援する心のケア支援員やスクールサポーター等のより効果的な活用を推進していく。

いじめの認知件数については、各学校で積極的な認知に努め、これまでと同様に全国と比較して高い水準にある。いじめの解消率が低下していることから、今後も日常的に注意深く観察を継続し、いじめの解消に向け早い段階で児童生徒や保護者が解決したと実感できる取組を進めていくとともに、「行きたくなる学校づくり」を更に推進していかねばならない。

また、依然として不登校児童生徒の出現率が高い状況となっている。そのような中で、全国に比べ、不登校児童生徒の再登校率は高く、特に「みやぎ子どもの心のケアハウス」を設置している市町での再登校率が高くなっていることから、不登校児童生徒と保護者の支援に向けて、本事業の拡充に努めていく。

今回の調査結果を踏まえて、市町村教育委員会やPTA、保健福祉部局等と連携し、以下のような取組を一層推進する。

(1) 各学校における組織的な対応の推進

- ・ 校長会議や研修会等における現状認識と組織的対応の改善

(2) 学校を外から支援する体制の強化

- ・ 初期段階の的確なアセスメント（見立て）への専門家の活用及び関係機関との連携（スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、児童生徒の心のサポート班、保健福祉部局等）
- ・ 児童生徒一人一人の背景等を把握した個別のケア（支援計画等活用）の推進
- ・ 「みやぎ子どもの心のケアハウス運営支援事業」の拡充

(3) 行きたくなる学校づくり

- ・ 「子供の声を聴き、ほめ、認める授業づくり」「子供が互いに認め合う学級づくり」
- ・ 家庭や地域と連携し、自己有用感を高める「志教育」の一層の推進

(4) 幼保・小・中・高の更なる連携強化

- ・ 申し送り個票等を活用した、接続期の確実な引継（幼児、児童生徒）
- ・ 校種を越えた平時からの情報交換の実施

問題行動等への対応

- (1) 各学校における組織的な対応の推進
- (2) 学校を外から支援する体制の強化
- (3) 行きたくなる学校づくり
- (4) 幼保・小・中・高の更なる連携強化

心のケア・いじめ・不登校等対策支援チームの設置 (教育庁内関係全課室公所に相談窓口を設置)

心のケア・いじめ・不登校等対策プロジェクトチーム (義務教育課内に設置)

- 心のケア、いじめ、不登校等対策を総合的に企画・調整
- 相談窓口の運営、現場訪問に係る総合調整

児童生徒の心のサポート班 (東部教育事務所内に設置)

- 心のケア、いじめ、不登校等に対する訪問指導及び来所相談
- 指導主事、心理職員、スクールソーシャルワーカーで班を構成

教育相談充実事業 (小・中)

スクールカウンセラーの配置

- 全公立中学校に配置
- 全市町村に広域カウンセラーを配置し全公立小学校に対応
- 児童生徒等及び保護者からの相談対応
- カウンセリングに関する教員への助言等校内教育相談体制の充実
- 要請のあった学校への緊急派遣

教育事務所専門カウンセラーの配置

- 教育事務所(地域事務所)管内の児童生徒や保護者及び教職員からの相談に対応(各教育事務所等に配置)

- 不登校児童生徒保護者対象相談会・懇談会での講話、教育相談の実施
- 緊急対応、心のケアを要する学校でのカウンセリングの実施

けやき支援員、けやきフレンドの派遣

- 適応指導教室等にけやき支援員を派遣
- 適応指導教室へのボランティア(けやきフレンド)の派遣

学校教育活動復旧支援員の配置 (市町村委託)

- 被災した児童生徒の心のケア
- 被災した学校の教職員、保護者への援助、助言等

いじめ・不登校等対策推進事業 (小・中)

- 各教育事務所に在学青少年育成員を配置し、在学青少年の実態把握、相談及び助言等を実施
- 推進校に心のケア支援員を配置し、いじめ、不登校、問題行動等に対応
- 教育庁に心のサポートアドバイザーを配置し、いじめ、不登校等の課題を抱える学校を支援
- みやぎ小・中学生いじめゼロCMコンクール
- みやぎ小・中学生いじめ問題を考えるフォーラム

登校支援ネットワーク事業

- 訪問指導員を配置し、不登校児童生徒及び保護者を対象とした訪問指導(相談及び学習支援)を実施
- 各教育事務所等に「地域ネットワークセンター」を設置

スクールソーシャルワーカー活用事業

- スクールソーシャルワーカーの配置 (市町村委託)
- スクールソーシャルワーカースーパーバイザーの派遣

高等学校スクールカウンセラーの配置(高)

- 不登校や中退、問題行動等の対応や、生徒の精神的な安定を図る支援を行うため、県立高等学校に臨床心理士等を配置
- 生徒、保護者、教職員に対する計画的、継続的なカウンセリング
- 教育相談に関する教職員への助言・援助

ネット被害未然防止対策

- 講演会の開催とフィルタリング機能の普及促進、情報モラルの啓発
- ネットパトロールの実施

総合教育相談

- 児童生徒及び保護者等が抱えるいじめ、不登校等の問題に関する教育相談
- 「不登校・発達支援相談室」で臨床心理士等が行う面談・電話による教育相談
- 24時間子供SOSダイヤル

いじめ・不登校等対策強化事業(高)

- いじめ問題対策連絡協議会の設置・開催
- いじめ防止対策調査委員会の設置・開催
- 学校警察連絡協議会の設置・開催
- 心のケア支援員、心のサポートアドバイザーの配置
- 問題が深刻化した場合の支援チーム派遣
- 学校間や関係機関との連携

生徒指導支援事業(小・中)

- 教職員の、いじめ、暴力行為、不登校等の問題行動等に適切に対応できる資質・能力の向上
- 生徒指導主事等研修会
- 問題行動等対応研修会
- 問題行動等に対する実効性のある教育施策の提言
- 生徒指導上の諸問題に関する協議会

みやぎ子どもの心のケアハウス運営支援事業(小・中)

- 東日本大震災に起因する心の問題から生じる不登校や不登校傾向及びいじめ等により、学校生活に困難を抱えるようになった児童生徒の学校復帰や自立支援を目的として市町村が行う体制整備を支援

全ての児童生徒が「行きたくなる学校づくり」を目指す

○安全担当主幹教諭の配置(小・中)

○いじめ・不登校対策担当者の位置付け(小・中)

子供の声を聴き、ほめ・認める授業づくり

- 指導主事学校訪問でのいじめの話し合い
- 児童生徒の主体的な取組
- 主体的・対話的で深い学びのある授業づくり

子供が互いに認め合う学級づくり



家庭 認識を共有し、共に育てる



「志教育」の推進



地域 学校を支援する体制整備を充実させる

平成29年度宮城県児童生徒学習意識等調査の結果について

1 実施状況

(1) 調査の目的

宮城県（仙台市を除く）の児童生徒における震災の影響と学習・生活に係る取組や意識等を調査することにより、児童生徒の心のケアと一層の学力向上を図る教育施策の企画・立案に活用する。また、各学校における教育に関する継続的な検証改善サイクルの充実を図る。

(2) 調査実施期日

平成29年6月26日（月）から平成29年6月30日（金）までの期間で学校事情に合わせた任意の日

(3) 調査対象者（仙台市を除く）

対 象（*1）	調査事項	実施校	参加児童生徒数
小学校5年生の全児童	生活習慣	262校	10,672人
中学校1年生の全生徒	学習習慣	139校	10,667人
学 校	児童生徒への関わり方 指導方法	上記の全小・中学校	

*1 特別支援学校を含む。

*2 中学校においては、平成26年度から平成28年度まで中学校2年生を対象に実施。

2 調査結果の概況

別冊 平成29年度宮城県児童生徒学習意識等調査結果 参照

3 本調査から見えた課題と今後の対応

(1) 課題

○ 教員の側は、ほとんどが「児童生徒に積極的に声を掛け、励ましている」、「児童生徒の話をよく聴いている」、「よい点や可能性を見付け評価している」と回答している。しかし、同じ質問項目について肯定的な回答をしている児

児童生の割合は低く、教員の意識と児童生の意識にかい離が見られる。また、授業でのめあての提示や振り返りの活動についても、未だ意識のかい離が見られる。(P1～P5, P20～P21)

- 「突然震災を思い出し、気持ちが落ち着かなくなることがある」と回答している小5は14.6%, 中1は7%であり、未だに震災の影響が見られる。(P6～P7)
- 「携帯電話やスマートフォンを所持している」と回答している小5の割合は43.3%で、中1の割合は56.7%となっている。また、「平日に携帯電話やスマートフォンで無料通信アプリを1時間以上使う」と回答した小5の割合は12%と増加しており、中1では23.4%となっている。情報モラル教育を含めた情報活用能力の育成が必要である。(P9～P12)
- 昨年度まで調査対象であった中2では、「家で予習をしている」、「復習をしている」と回答した割合は、それぞれ49.4%, 63.2%であった。今年度の中1の回答を、小5、小6の回答と3年間の経年で比較すると向上が見られ、それぞれ58.8%, 79.0%となっており、この意欲を低下させない取組が必要である。(P22～P29)

(2) 今後の対応

① 「分かる授業」と「行きたくなる学校づくり」の推進

学力向上については、何よりも学校教育の中軸であり、児童生徒が「分かった」と実感することで達成感や自己有用感をもつことができ、行きたくなる学校づくりにつながる。そのためには、授業づくりや学級づくりの基盤となる「学力向上に向けた5つの提言」に基づいた不断の授業改善を促し、「子供の声を聴き、ほめ、認める授業づくり」、「子供が互いに認め合う学級づくり」を推進する。また、学力向上に学校として取り組み、成果を上げている具体的な取組事例を広く紹介し、各学校の着実な実践につながるよう支援していく。

② 心のケアや生活習慣の形成等の推進

各学校において、震災による影響を含めて、児童生徒の状況を計画的にきめ細かく把握し、一人一人に寄り添いながら、心のケアと落ち着いて学習できる環境の整備に努める。また、携帯電話やスマートフォンの使い方も含め、家庭と協力しながら、基本的な生活習慣、学習習慣の形成を一層図っていく。さらに、「みやぎSNSナビゲーション」を活用するなど、情報モラル教育を含めた情報活用能力の育成を促進する。

③ 学習意欲や活動意欲を持続させるための工夫

小・中学校9年間それぞれの発達段階に応じた課題や目標を設定することで、児童生徒一人一人の意欲的な取組を引き出し、達成感や自己有用感、さらに所属感を味わわせ、学校生活の充実につなげる。

④ 市町村教育委員会との連携の推進

各学校が心のケアや学力向上に向けた取組を一層充実させることができるよう、「みやぎ子どもの心のケアハウス運営支援事業」の拡充や「学び支援コーディネーター等配置事業」の推進など、今後とも、市町村教育委員会との連携を推進していく。

平成30年度宮城県公立高等学校入学者選抜に係る 第1回予備調査の結果について

1 調査目的

志願状況の概数を把握することで、受験生の高校選択及び中学校の進路指導等の参考資料とする

2 調査対象学校数

- ・ 県内の国立・公立・私立の中学校（208校）
- ・ 中等教育学校（2校）
- ・ 特別支援学校中学部（18校）
- ・ 県境隣接地域協定に係る中学校 岩手県（23校）及び福島県（8校）

合計 259校

3 入学者選抜実施高等学校数・学科（コースを含む）数

- | | |
|-----------------------|-------------|
| (1) 全日制課程 県立65校, 市立4校 | 計69校 135学科 |
| (2) 定時制課程 県立11校, 市立2校 | 計13校 21学科 |
| | 合計74校 156学科 |

※全日制課程と定時制課程の設置校は8校

4 総括

		全日制課程				定時制課程			
		H30	H29	増減	H24	H30	H29	増減	H24
中学校卒業予定者数 (H29.5.1現在)		21,008	21,590	▲ 582	21,999				
志願者調査	募集定員	14,560	14,720	▲ 160	15,160	1,000	1,000	0	1,040
	志願者	16,917	17,526	▲ 609	18,585	274	314	▲ 40	378
	倍率	1.16	1.19	▲ 0.03	1.23	0.27	0.31	▲ 0.04	0.36
前期選抜調査	募集人数	4,814	4,846	▲ 32	5,066	296	296	0	295
	志願者	8,194	8,248	▲ 54	5,302	103	99	4	25
	倍率	1.70	1.70	0.00	1.05	0.35	0.33	0.02	0.08

※推薦入試の最終年度と比較するために、H24の数値を掲載している。

5 各高校の入学志願状況（第1回予備調査）

《全日制課程》

学校名	学科・コース	平成30年度 募集 定員	前期選抜 募集 人数	第1回志願者予備調査				左のうち 前期選抜志願者数				平成29年度		
				男	女	計	倍率	男	女	計	倍率	第1回 予備調査 倍率	前期選抜 出願倍率	後期選抜 出願倍率
1 白石	普通科	240	72	132	106	238	0.99	65	65	130	1.81	1.06	1.19	1.02
	看護科 ●	40	12	1	80	81	2.03	0	31	31	2.58	1.80	1.50	1.54
2 蔵王	普通科	80	24	17	20	37	0.46	12	11	23	0.96	0.36	0.67	0.57
3 白石工	機械科 ◎	80	32	77	3	80	1.00	52	2	54	1.69	1.01	1.66	1.08
	電気科 ◎	40	16	30	0	30	0.75	23	0	23	1.44	1.33	2.88	1.08
	工業化学科 ◎	40	16	17	18	35	0.88	7	12	19	1.19	0.93	2.00	1.08
	建築科 ◎	40	16	36	17	53	1.33	23	16	39	2.44	2.00	3.63	1.50
	設備工業科 ◎	40	16	27	0	27	0.68	22	0	22	1.38	0.80	1.38	1.75
4 村田	総合学科	120	48	43	24	67	0.56	13	12	25	0.52	0.65	0.56	0.75
5 柴田農林 川崎	食農科学科・動物科学科◎★	80	32	39	34	73	0.91	24	25	49	1.53	1.14	1.88	0.88
	森林環境科・園芸工学科◎★	80	32	33	15	48	0.60	23	11	34	1.06	0.60	1.84	1.29
	普通科	40	12	12	15	27	0.68	1	5	6	0.50	0.45	0.50	0.44
6 大河原商	流通マネジメント科◎	80	32	15	54	69	0.86	4	41	45	1.41	0.96	1.22	1.04
	情報システム科 ◎	80	32	34	33	67	0.84	24	23	47	1.47	1.10	1.84	1.21
	OA会計科 ◎	40	16	2	31	33	0.83	2	22	24	1.50	0.75	1.25	0.48
7 柴田	普通科	120	36	55	54	109	0.91	22	36	58	1.61	0.83	0.64	1.09
	体育科 ●	40	28	57	10	67	1.68	55	7	62	2.21	1.05	1.64	0.92
刈田柴田 地区 計		1,280	472	627	514	1,141	0.89	372	319	691	1.46	0.95	1.42	1.00
8 角田	普通科	160	48	72	71	143	0.89	21	34	55	1.15	0.97	1.27	0.98
9 伊具	総合学科	120	36	32	29	61	0.51	4	10	14	0.39	0.58	0.78	0.65
伊具 地区 計		280	84	104	100	204	0.73	25	44	69	0.82	0.80	1.06	0.83
南部 地区 合計		1,560	556	731	614	1,345	0.86	397	363	760	1.37	0.92	1.37	0.97
10 名取	普通科	240	72	144	186	330	1.38	56	80	136	1.89	1.53	1.50	1.53
	家政科 ●	40	16	4	64	68	1.70	0	26	26	1.63	2.08	2.06	1.71
11 名取北	普通科	280	84	167	244	411	1.47	49	107	156	1.86	1.45	1.31	1.16
12 亘理	普通科・普通コース ◎	40	16	23	13	36	0.90	7	5	12	0.75	1.10	1.13	2.13
	普通科・園芸コース ◎	40	16	19	10	29	0.73	2	4	6	0.38	0.93	0.06	1.18
	食品化学科 ◎	40	16	20	15	35	0.88	6	12	18	1.13	0.90	0.13	1.18
	商業科 ◎	40	16	14	5	19	0.48	2	3	5	0.31	0.58	0.38	1.09
	家政科 ◎	40	16	0	31	31	0.78	0	13	13	0.81	0.78	0.50	0.97
13 宮城農	農業科・園芸科 ◎★	120	48	67	79	146	1.22	51	60	111	2.31	1.28	3.10	1.76
	農業機械科 ◎	40	16	47	4	51	1.28	31	2	33	2.06	1.53	2.94	1.13
	食品化学科 ◎	40	16	33	42	75	1.88	16	29	45	2.81	1.35	3.19	1.63
	生活科 ◎	40	16	13	40	53	1.33	6	26	32	2.00	1.03	3.38	1.46
亘理名取 地区 計		1,000	348	551	733	1,284	1.28	226	367	593	1.70	1.34	1.69	1.38
14 仙前一	普通科	320	64	395	265	660	2.06	255	193	448	7.00	1.77	6.63	1.38
15 仙台二華	普通科 ■	240	40	89	166	255	1.06	17	68	85	2.13	1.00	2.25	1.52
16 仙台三桜	普通科	280	84	25	298	323	1.15	6	118	124	1.48	1.48	1.32	1.42
17 仙台向山	普通科 ◎	160	48	99	92	191	1.19	43	52	95	1.98	1.29	2.19	1.38
	理数科 ◎	40	16	14	6	20	0.50	4	4	8	0.50	0.75	1.31	1.58
18 仙台南	普通科	280	84	253	256	509	1.82	67	138	205	2.44	1.83	2.01	1.25
19 仙台西	普通科	280	84	177	174	351	1.25	41	56	97	1.15	1.18	1.52	1.48
20 仙台東	普通科	240	72	176	151	327	1.36	32	67	99	1.38	1.35	1.28	1.30
	英語科 ●	40	12	14	42	56	1.40	2	17	19	1.58	1.15	0.92	1.07
21 宮城工	機械科 ◎	80	32	88	1	89	1.11	37	0	37	1.16	1.50	1.06	1.27
	電子機械科 ◎	40	16	55	1	56	1.40	25	1	26	1.63	1.60	1.31	0.96
	電気科 ◎	80	32	92	2	94	1.18	46	1	47	1.47	1.03	0.97	1.47
	情報技術科 ◎	40	16	79	7	86	2.15	34	2	36	2.25	1.45	1.19	1.42
	化学工業科 ◎	40	16	24	6	30	0.75	6	4	10	0.63	0.98	0.88	1.42
	インテリア科 ◎	40	16	14	28	42	1.05	6	18	24	1.50	2.18	3.19	2.42
22 仙台工※	建築科 ◎	30	12	50	14	64	2.13	23	8	31	2.58	3.00	2.25	2.44
	機械科 ◎	70	28	114	6	120	1.71	40	2	42	1.50	1.89	1.46	1.76
	電気科 ◎	70	28	51	5	56	0.80	22	1	23	0.82	0.89	1.00	1.56
	土木科 ◎	30	12	34	5	39	1.30	15	2	17	1.42	1.80	1.83	1.83
仙台南 地区 計		2,400	712	1,843	1,525	3,368	1.40	721	752	1,473	2.07	1.44	2.02	1.42
中部南 地区 合計		3,400	1,060	2,394	2,258	4,652	1.37	947	1,119	2,066	1.95	1.41	1.91	1.41

5 各高校の入学志願状況（第1回予備調査）

《全日制課程》

学校名	学科・コース	平成30年度 募集 定員	前期選抜 募集 人数	第1回志願者予備調査				左のうち 前期選抜志願者数				平成29年度		
				男	女	計	倍率	男	女	計	倍率	第1回 予備調査 倍率	前期選抜 出願倍率	後期選抜 出願倍率
23 仙台二	普通科	320	96	247	169	416	1.30	148	130	278	2.90	1.43	2.85	1.43
24 仙台三	普通科	240	72	290	202	492	2.05	147	136	283	3.93	2.34	4.08	1.64
	理数科	80	32	104	38	142	1.78	58	32	90	2.81	0.90	1.97	1.15
25 宮城一	普通科	200	60	31	234	265	1.33	5	137	142	2.37	1.17	2.27	1.31
	理数科	80	32	20	43	63	0.79	5	20	25	0.78	0.63	1.06	1.46
26 宮城広瀬	普通科	280	70	163	173	336	1.20	32	67	99	1.41	1.20	1.19	1.56
27 泉	普通科	240	72	195	198	393	1.64	45	72	117	1.63	1.85	1.26	1.48
	英語科	40	16	26	57	83	2.08	10	31	41	2.56	1.38	1.38	1.88
28 泉松陵	普通科	240	72	100	104	204	0.85	16	42	58	0.81	1.09	1.10	1.33
29 泉館山	普通科	280	84	127	192	319	1.14	31	101	132	1.57	1.28	1.56	1.51
30 宮城野	普通科	160	40	132	165	297	1.86	29	72	101	2.53	1.64	1.70	1.86
	美術科	40	20	16	50	66	1.65	11	42	53	2.65	1.68	3.35	2.05
	総合学科	80	24	26	32	58	0.73	7	16	23	0.96	1.08	0.79	1.49
31 仙 台※	普通科	280	84	210	179	389	1.39	43	76	119	1.42	1.41	1.18	1.27
32 仙 台商※	商業科	320	128	220	298	518	1.62	92	119	211	1.65	1.53	1.51	1.49
仙 台 北 地 区 計		2,880	902	1,907	2,134	4,041	1.40	679	1,093	1,772	1.96	1.43	1.82	1.48
33 塩 釜	普通科	280	70	174	225	399	1.43	48	96	144	2.06	1.43	1.81	1.31
	ビジネス科	80	24	18	37	55	0.69	3	13	16	0.67	1.30	1.54	2.02
34 多 賀 城	普通科	240	72	166	193	359	1.50	99	127	226	3.14	1.43	3.39	1.27
	災害科学科	40	16	11	10	21	0.53	6	6	12	0.75	0.63	2.50	1.21
35 松 島	普通科	120	36	114	102	216	1.80	54	60	114	3.17	1.62	3.53	1.96
	観光科	80	32	17	41	58	0.73	5	23	28	0.88	1.01	1.47	1.29
36 利 府	普通科	200	60	143	101	244	1.22	71	56	127	2.12	1.03	1.43	0.97
	スポーツ科学科	80	56	82	27	109	1.36	65	23	88	1.57	2.04	2.13	2.29
塩 釜 地 区 計		1,120	366	725	736	1,461	1.30	351	404	755	2.06	1.36	2.25	1.39
37 黒 川	普通科	80	24	31	63	94	1.18	13	30	43	1.79	1.58	0.71	1.57
	機械科	80	32	64	2	66	0.83	23	0	23	0.72	0.93	0.56	1.13
	電子工学科	40	16	23	6	29	0.73	9	6	15	0.94	0.43	0.38	0.44
	環境技術科	40	16	29	22	51	1.28	12	9	21	1.31	0.98	1.38	1.67
38 富 谷	普通科・人文コース	120	48	73	127	200	1.67	14	66	80	1.67	1.51	1.29	1.79
	普通科・国際コース	80	32	29	51	80	1.00	7	28	35	1.09	0.84	0.94	0.98
	普通科・理数コース	80	32	48	32	80	1.00	14	20	34	1.06	1.00	1.16	1.69
黒 川 地 区 計		520	200	297	303	600	1.15	92	159	251	1.26	1.12	0.96	1.37
中 部 北 地 区 合 計		4,520	1,468	2,929	3,173	6,102	1.35	1,122	1,656	2,778	1.89	1.38	1.81	1.44
39 古 川	普通科	240	72	176	149	325	1.35	123	108	231	3.21	1.30	2.93	1.14
40 古川黎明	普通科	240	40	76	186	262	1.09	13	75	88	2.20	1.00	1.73	0.92
41 岩 出 山	普通科	120	36	51	42	93	0.78	14	21	35	0.97	0.90	1.89	0.83
42 中 新 田	普通科	120	36	59	58	117	0.98	35	26	61	1.69	0.81	1.75	0.96
43 松 山	普通科	40	12	13	19	32	0.80	6	11	17	1.42	0.48	0.75	0.26
	家政科	40	16	1	27	28	0.70	1	17	18	1.13	0.73	1.63	0.92
44 加 美 農	農業科	40	16	17	4	21	0.53	5	1	6	0.38	0.50	0.25	0.56
	農業機械科	40	16	18	0	18	0.45	9	0	9	0.56	0.70	0.44	0.67
	生活技術科	40	16	0	18	18	0.45	0	9	9	0.56	0.43	0.50	0.44
45 古 川 工	土木情報科	40	16	37	20	57	1.43	20	10	30	1.88	1.93	1.38	1.21
	建築科	40	16	21	25	46	1.15	10	17	27	1.69	1.75	1.25	1.29
	電気電子科	40	16	34	15	49	1.23	16	7	23	1.44	1.43	1.56	1.46
	機械科	80	32	104	0	104	1.30	56	0	56	1.75	1.38	1.19	1.38
46 鹿 島 台 商	化学技術科	40	16	14	29	43	1.08	7	12	19	1.19	1.45	1.44	1.21
	商業科	120	48	30	18	48	0.40	14	12	26	0.54	0.46	1.10	0.51
大 崎 地 区 計		1,280	404	651	610	1,261	0.99	329	326	655	1.62	1.01	1.60	0.93
47 涌 谷	普通科	160	48	65	53	118	0.74	31	29	60	1.25	0.70	1.40	0.79
48 小 牛 田 農 林	農業技術科・農業科学コース	40	16	26	16	42	1.05	11	8	19	1.19	1.03	1.56	1.08
	農業技術科・農業土木コース	40	16	32	2	34	0.85	17	2	19	1.19	1.05	1.69	1.17
	総合学科	120	48	51	104	155	1.29	29	76	105	2.19	1.13	2.25	1.04
49 南 郷	普通科	40	12	4	6	10	0.25	2	4	6	0.50	0.43	0.42	0.40
	産業技術科	40	16	9	4	13	0.33	4	2	6	0.38	0.58	0.56	0.90
遠 田 地 区 計		440	156	187	185	372	0.85	94	121	215	1.38	0.84	1.54	0.87

5 各高校の入学志願状況（第1回予備調査）

《全日制課程》

学校名	学科・コース	平成30年度 募集 定員	前期選抜 募集 人数	第1回志願者予備調査				左のうち 前期選抜志願者数				平成29年度		
				男	女	計	倍率	男	女	計	倍率	第1回 予備調査 倍率	前期選抜 出願倍率	後期選抜 出願倍率
50 佐 沼	普通科	240	72	128	121	249	1.04	81	83	164	2.28	0.88	1.58	0.79
51 登 米	普通科	120	36	71	58	129	1.08	34	40	74	2.06	1.19	2.17	1.10
52 登米総合産業	農業科 ◎	40	16	12	5	17	0.43	5	2	7	0.44	1.05	0.63	1.09
	機械科 ◎	40	16	43	0	43	1.08	25	0	25	1.56	1.10	1.31	0.92
	電気科 ◎	40	16	23	2	25	0.63	17	1	18	1.13	0.40	0.81	0.79
	情報技術科 ◎	40	16	24	13	37	0.93	10	8	18	1.13	0.58	0.94	0.65
	商業科 ◎	40	16	3	27	30	0.75	1	17	18	1.13	1.00	1.31	0.75
	福祉科 ◎	40	16	6	19	25	0.63	3	12	15	0.94	0.65	1.19	0.83
登米地区計		600	204	310	245	555	0.93	176	163	339	1.66	0.91	1.43	0.87
53 築 館	普通科	160	48	86	98	184	1.15	51	70	121	2.52	1.08	1.94	0.92
54 岩ヶ崎	普通科・文系教養コース◎	80	32	13	24	37	0.46	4	19	23	0.72	0.61	0.50	0.73
	普通科・理系教養コース◎	40	16	10	7	17	0.43	7	6	13	0.81	0.78	1.25	0.29
55 迫 桜	総合学科	200	80	73	94	167	0.84	37	52	89	1.11	1.07	1.41	1.13
56 一迫商	流通経済科 ◎	40	16	10	10	20	0.50	3	4	7	0.44	0.55	1.19	0.75
	情報処理科 ◎	40	16	18	16	34	0.85	12	9	21	1.31	0.40	0.63	0.50
栗原地区計		560	208	210	249	459	0.82	114	160	274	1.32	0.90	1.30	0.87
北部地区合計		2,880	972	1,358	1,289	2,647	0.92	713	770	1,483	1.53	0.94	1.49	0.89
57 石 巻	普通科	240	72	124	133	257	1.07	54	89	143	1.99	1.05	1.63	1.03
58 石巻好文館	普通科	200	60	70	157	227	1.14	23	86	109	1.82	1.01	1.28	1.03
59 石巻西	普通科	160	48	100	129	229	1.43	43	74	117	2.44	1.32	1.37	1.07
60 石巻北	総合学科	200	80	106	102	208	1.04	45	51	96	1.20	1.03	1.24	1.13
61 宮城水産	海洋総合科	160	64	68	16	84	0.53	44	12	56	0.88	0.58	1.08	0.55
62 石巻工	機械科 ◎	80	32	82	1	83	1.04	44	0	44	1.38	1.18	1.00	1.15
	電気情報科 ◎	40	16	39	5	44	1.10	20	3	23	1.44	1.15	1.50	0.87
	化学技術科 ◎	40	16	21	1	22	0.55	4	1	5	0.31	0.35	0.31	0.69
	土木システム科 ◎	40	16	53	1	54	1.35	22	0	22	1.38	1.30	0.50	1.00
	建築科 ◎	40	16	38	15	53	1.33	17	12	29	1.81	1.20	1.25	1.00
63 石巻商	総合ビジネス科	200	80	107	95	202	1.01	56	55	111	1.39	0.96	1.48	0.90
64 桜 坂※	普通科・学励探求コース◎	120	48	*	74	74	0.62	*	52	52	1.08	0.61	1.77	0.60
	普通科・キャリア探求コース◎	80	32	*	59	59	0.74	*	38	38	1.19	1.11	2.31	1.23
石巻地区計		1,600	580	808	788	1,596	1.00	372	473	845	1.46	0.99	1.37	0.96
65(仮称)気仙沼	普通科	240	72	147	147	294	1.23	75	70	145	2.01	—	—	—
66 志津川	普通科 ☆	80	12	22	19	41	0.51	1	0	1	0.08	0.78	1.50	0.15
	情報ビジネス科 ☆	40	10	2	9	11	0.28	0	0	0	0.00	0.25	1.00	0.18
67 本吉響	総合学科	120	36	42	66	108	0.90	15	31	46	1.28	0.52	0.61	0.62
68 気仙沼向洋	情報海洋科 ◎	40	16	22	5	27	0.68	14	2	16	1.00	0.98	1.94	1.42
	産業経済科 ◎	40	16	8	36	44	1.10	5	22	27	1.69	1.20	1.50	1.50
	機械技術科 ◎	40	16	49	1	50	1.25	27	0	27	1.69	1.53	1.81	1.17
本吉地区計		600	178	292	283	575	0.96	137	125	262	1.47	0.99	1.32	0.95
東部地区合計		2,200	758	1,100	1,071	2,171	0.99	509	598	1,107	1.46	0.99	1.36	0.96
全 日 制 合 計		14,560	4,814	8,512	8,405	16,917	1.16	3,688	4,506	8,194	1.70	1.19	1.65	1.20

◎は後期選抜において、出願学科以外のいずれか1つを第2志望とできる学科(柴田農林においては川崎校を除く)、●は後期選抜において、普通科を第2志望にできる学科、★は一括募集、☆は連携型選抜を実施する学科、※は市立高等学校を示す。■は併設中学校からの入学を含む。

5 各高校の入学志願状況（第1回予備調査）

《定時制課程》

学校名	学科・コース	平成30年度 募集 定員	前期選抜 募集 人数	第1回志願者予備調査				左のうち 前期選抜志願者数				平成29年度		
				男	女	計	倍率	男	女	計	倍率	第1回 予備調査 倍率	前期選抜 出願倍率	後期選抜 出願倍率
1 白石七ヶ宿	普通科 / 昼	40	12	3	5	8	0.20	0	3	3	0.25	0.30	0.75	0.44
2 大河原商	普通科 / 夜	40	8	6	8	14	0.35	1	3	4	0.50	0.23	0.13	0.25
3 宮城二工	電子機械科 / 夜 ◎	40	16	4	0	4	0.10	1	0	1	0.06	0.15	0.56	0.24
	電気科 / 夜 ◎	40	16	3	0	3	0.08	0	0	0	0.00	0.03	0.19	0.11
4 名 取	普通科 / 夜	40	12	8	0	8	0.20	2	0	2	0.17	0.20	0.25	0.22
5 貞 山	普通科 / 昼	120	36	23	15	38	0.32	5	9	14	0.39	0.43	1.06	0.39
	普通科 / 夜	40	12	3	4	7	0.18	1	2	3	0.25	0.15	0.17	0.16
6 古川工	機械科 / 夜 ◎	40	12	6	1	7	0.18	1	1	2	0.17	0.13	0.25	0.05
	電気科 / 夜 ◎	40	12	1	1	2	0.05	1	0	1	0.08	0.13	0.08	0.10
7 田尻さくら	普通科 / I部（午前）	80	24	8	15	23	0.29	1	5	6	0.25	0.36	0.42	0.36
	普通科 / II部（午後夕間）	40	12	2	0	2	0.05	0	0	0	0.00	0.13	0.08	0.33
8 佐 沼	普通科 / 夜	40	12	4	2	6	0.15	1	0	1	0.08	0.10	0.25	0.22
9 東松島	普通科 / I部（午前）◎	40	8	13	19	32	0.80	7	11	18	2.25	0.93	2.75	0.63
	普通科 / II部（午後）◎	40	8	9	6	15	0.38	2	3	5	0.63	0.55	1.13	0.63
	普通科 / III部（夜間）◎	40	8	1	1	2	0.05	0	0	0	0.00	0.18	0.25	0.18
10 石巻北飯野川	普通科 / 昼	40	12	10	3	13	0.33	1	2	3	0.25	0.15	0.67	0.41
11 (仮称)気仙沼	普通科 / 夜	40	8	3	2	5	0.13	2	1	3	0.38	—	—	—
12 仙台大志※	普通科 / I部（午前午後）◎	90	27	29	34	63	0.70	14	14	28	1.04	0.78	1.85	0.81
	普通科 / II部（午後夜間）◎	30	9	6	3	9	0.30	0	2	2	0.22	0.43	1.22	0.48
13 仙 台 工※	建築土木科 / 夜 ◎	40	16	7	0	7	0.18	5	0	5	0.31	0.23	0.31	0.17
	機械科 / 夜 ◎	40	16	6	0	6	0.15	2	0	2	0.13	0.13	0.50	0.17
定 時 制 合 計		1,000	296	155	119	274	0.27	47	56	103	0.35	0.31	0.67	0.32

◎は後期選抜において、出願学科以外のいずれか1つを第2志望とできる学科、※は市立高等学校を示す。

《連携型選抜》

学校名	学科・コース	平成30年度 募集 定員	連携型 選抜 募集人数	連携型選抜出願者数等				
				平成30年度			平成29年度	
				男	女	計	出願者数	合格者数
66 志津川	普通科	80	64	21	19	40	53	48
	情報ビジネス科	40	28	2	8	10	4	3
連 携 型 選 抜 合 計		120	92	23	27	50	57	51

補助資料

1 志願者調査(全日制)

年度	H30	H29	H28	H27	H24※
中学校卒業者	21,008	21,590	21,723	21,756	21,999
募集定員	14,560	14,720	14,760	14,920	15,160
志願者数	16,917	17,526	17,937	17,945	18,585
志願倍率	1.16	1.19	1.22	1.20	1.23

※H24の値は旧制度実施時のもの

2 前期選抜調査(全日制)…地区別

地区	H30	H29	H28	H27	H24※
南部	1.37	1.41	1.36	1.18	0.69
中部南	1.95	1.97	2.13	1.85	1.32
中部北	1.89	1.81	1.92	1.93	1.31
北部	1.53	1.53	1.54	1.40	0.73
東部	1.46	1.56	1.56	1.52	0.85
全日制合計	1.70	1.70	1.76	1.65	1.05

※H24の値は旧制度(推薦入試)実施時のもの

3 前期選抜調査(全日制)…学科別

学科	H30	H29	H28	H27	H24※
普通	2.00	1.96	2.05	1.86	1.22
農業	1.38	1.39	1.30	1.03	0.45
工業	1.40	1.55	1.64	1.54	0.89
商業	1.20	1.28	1.23	1.27	0.96
水産	1.03	1.16	1.03	0.89	0.51
体育	1.79	1.81	1.83	1.96	1.42
英語	2.14	1.07	2.00	1.79	1.09
家庭	1.19	1.50	1.56	1.10	0.92
看護	2.58	1.58	2.58	2.25	1.81
理数	1.54	1.00	0.85	1.54	1.00
美術	2.65	2.60	2.75	3.00	0.96
総合	1.13	1.16	1.20	1.30	0.60
福祉	0.94	0.81	1.13	1.31	—
災害科学	0.75	1.13	1.94	—	—
全日制合計	1.70	1.70	1.76	1.65	1.05

※H24の値は旧制度(推薦入試)実施時のもの

4 学校・学科別の志願倍率（全日制）

(1) 志願者調査

(H30)

No.	学校名	学科名	倍率
1	宮城工	情報技術科	2.15
2	仙台工	建築科	2.13
3	泉	英語科	2.08
4	仙合一	普通科	2.06
5	仙台三	普通科	2.05
6	白石	看護科	2.03
7	宮城農	食品化学科	1.88
8	宮城野	普通科	1.86
9	仙台南	普通科	1.82
10	松島	普通科	1.80

(H29)

No.	学校名	学科名	倍率
1	仙台工	建築科	3.00
2	仙台三	普通科	2.34
3	宮城工	インテリア科	2.18
4	名取	家政科	2.08
5	利府	スポーツ科学科	2.04
6	白石工	建築科	2.00
7	古川工	土木情報科	1.93
8	仙台工	機械科	1.89
9	泉	普通科	1.85
10	仙台南	普通科	1.83

(2) 前期選抜調査

(H30)

No.	学校名	学科名	倍率
1	仙合一	普通科	7.00
2	仙台三	普通科	3.93
3	古川	普通科	3.21
4	松島	普通科	3.17
5	多賀城	普通科	3.14
6	仙台二	普通科	2.90
7	宮城農	食品化学科	2.81
7	仙台三	理数科	2.81
9	宮城野	美術科	2.65
10	仙台工	建築科	2.58
10	白石	看護科	2.58

(H29)

No.	学校名	学科名	倍率
1	仙合一	普通科	6.16
2	仙台三	普通科	4.61
3	白石工	建築科	3.63
4	古川	普通科	3.17
5	多賀城	普通科	3.06
6	仙台二	普通科	2.89
7	仙台工	建築科	2.83
8	宮城工	インテリア科	2.75
9	松島	普通科	2.64
9	登米	普通科	2.64

5 平成30年度に再編統合又は学級減を行う学校・学科の志願倍率等

(1) 再編統合を行う学校 ※気仙沼高等学校と気仙沼西高等学校が統合し、(仮称)気仙沼高等学校が新設される

① 志願者調査(全日制)

学校名	学科名	H30		
		募集定員	志願者	倍率
(仮称)気仙沼	普通科	240	294	1.23

② 前期選抜調査(全日制)

学校名	学科名	H30		
		募集定員	志願者	倍率
(仮称)気仙沼	普通科	72	145	2.01

【参考】

学校名	学科名	H29		
		募集定員	志願者	倍率
気仙沼	普通科	200	271	1.36
気仙沼西	普通科	80	81	1.01

【参考】

学校名	学科名	H29		
		募集定員	志願者	倍率
気仙沼	普通科	60	122	2.03
気仙沼西	普通科	24	22	0.92

(2) 学級減(1学級)を行う学校・学科

① 志願者調査

学校名	学科名	H30		
		募集定員	志願者	倍率
泉松陵	普通科	240	204	0.85
塩釜	普通科	280	399	1.43
石巻西	普通科	160	229	1.43

② 前期選抜調査

学校名	学科名	H30		
		募集定員	志願者	倍率
泉松陵	普通科	72	58	0.81
塩釜	普通科	70	144	2.06
石巻西	普通科	48	117	2.44

6 平成28年度に学科改編を行った学校・学科の志願倍率等

(1) 志願者調査

学校名	学科名	募集定員	H30		H29		H28	
			志願者	倍率	志願者	倍率	志願者	倍率
多賀城	災害科学科	40	21	0.53	25	0.63	40	1.00

(2) 前期選抜調査

学校名	学科名	募集人数	H30		H29		H28	
			志願者	倍率	志願者	倍率	志願者	倍率
多賀城	災害科学科	16	12	0.75	18	1.13	31	1.94

7 今後の入試日程

(1) 第2回志願者予備調査		1月 4日(木)~1月 5日(金)
(2) 前期選抜	出願期間	1月 9日(火)~1月12日(金) 午前11時
	学力検査・学校独自検査	1月31日(水)
	合格発表	2月 8日(木) 午後4時
(3) 後期選抜	出願期間	2月19日(月)~2月22日(木) 午前11時
	学力検査	3月 6日(火)
	合格発表	3月14日(水) 午後3時
(4) 第二次募集	出願期間	3月15日(木)~3月19日(月) 午後3時
	学力検査等	3月20日(火)
	合格発表	3月20日(火)又は3月22日(木)

平成29年度公立高等学校みやぎ学力状況調査の結果について

1 目的	生徒の学力状況と学習、生活、「志教育」に関する意識等について調査分析し、各学校における学習指導の取組、本県の学力向上施策の改善に役立てる。
2 調査項目	教科に関する調査（国語、数学、英語）： 2学年 質問紙調査： 1・2学年
3 調査対象	公立（県立、仙台市立、石巻市立）高校1年生約14,826人、2年生約14,531人
4 実施期間	平成29年7月3日（月）～7月10日（月）

※（ ）内は前年度の正答率

5 学力状況調査結果の主な課題（2学年）		共通問題正答率
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○言語に関する基礎的・基本的な知識内容に偏りが見られる。また、まとまりのある文章を読む際、文言を吟味し、文脈を踏まえて内容を的確に捉える力が不足している。 ・言語事項では、日本語の適切な表現、文法に関する知識の定着はある程度見られるものの、基本的な漢字の読み書き、慣用句、敬語についての理解は不十分である。 ・現代文では、文脈に即して内容を理解する力、心情の変化を捉えて行く力に、古典では、基本的な語句や文法を踏まえ、文章内容を正しく読み取る力に課題が見られる。 	49.6 (55.3)
数学	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な知識の定着度に大きな差が見られ、二極化傾向にある。繰り返し基礎事項を確認するなどし、知識・技能の定着を徹底する必要がある。 ・因数分解を利用した二次方程式の解法、ヒストグラムと箱ひげ図を対応させる問題については、一定の定着が見られる。 ・問題文から必要な条件を読み取り、必要な公式や定理を活用して立式する力に課題が見られる。 	48.6 (48.1)
英語	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な語彙や表現における知識の不足から、英語を適切に運用できない生徒が多い。また、読み取った内容を整理する力が弱いため、正答率が上がらない生徒も多い。 ・代名詞や分詞、不定詞など、基礎的・基本的な知識については定着が見られる。 ・リスニングや資料読み取りで、限られた時間内で適切な情報を把握する力に課題が見られる。 	44.1 (48.2)

6 意識調査結果の主な特徴（1学年・2学年）	
学習	<ul style="list-style-type: none"> ○平日に1日2時間以上学習する生徒の割合は、1学年で19%、2学年で14%程度である。 ○学習目標の提示や振り返りが行われている授業ほど、生徒の授業理解度が高い傾向にある。 ○家庭学習での悩みとして「集中できない」と回答した割合が最も多く、そのうちの約30%が平日最も時間をかけていることとして、スマートフォン等でのゲームやインターネットを挙げている。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ○生活習慣や体調管理について、75%以上の生徒が安定的な生活を送っている。 ○1学年では80%、2学年では70%程度の生徒が、学校生活に充実感や満足感を感じている。 ○集中して勉強できていると回答した生徒は、1学年で60%、2学年で55%程度である。
志教育	<ul style="list-style-type: none"> ○「志教育」の3つの視点に関する意識については、概ね良好な状況である。 ○「自分の個性や適性が分かっている」について、当てはまらないと回答した割合がやや増加した。 ○90%程度の生徒が、自分の役割に責任を持って行動していると回答した。

7 学力向上に向けた今後の取組			
各学校	<ul style="list-style-type: none"> ○授業改善の推進 ○家庭学習時間の確保 ○「志教育」の推進、多様な学習機会の提供 ○家庭と学校との連携 	県教委	<ul style="list-style-type: none"> ○全県的な学力傾向の把握 ○学力向上施策の推進 ○教員の資質向上 ○新学習指導要領の趣旨の周知

「みやぎ学校安全推進計画」の策定について

1 策定の趣旨

県教育委員会では、平成24年10月に「みやぎ学校安全基本指針」を策定し、その後、副読本の作成等防災教育の充実を図ってきた。

国においては、平成24年4月に学校安全の推進に関する計画が策定され、さらに、これまでの国の取組の検証や社会情勢の変化等を踏まえ、平成29年3月に、「第2次学校安全の推進に関する計画」が策定された。

県教育委員会では、こうした国の動きや本県における事件・事故・災害の発生状況を踏まえ、「みやぎ学校安全基本指針」を具現化し、県教育委員会、市町村教育委員会及び各学校が保護者、地域、関係機関等と連携をしながら、各学校における安全に係る取組を総合的かつ効果的に推進するため、「みやぎ学校安全推進計画」を策定した。

2 策定のポイント

- (1) 防災教育を中心に据えながら、交通安全、生活安全も加えた学校安全3領域に対応すること。
- (2) 平成29年度から5年間を見据えた学校安全推進の施策、具体的な方策とすること。
- (3) 学校安全を推進するための方策について、県教育委員会、市町村教育委員会、学校ごとに具体的な取組とすること。

3 策定までの経緯

みやぎ安全教育総合推進ネットワーク会議（東北大学 今村文彦教授をはじめとする学識経験者、仙台管区气象台、PTA連合会、宮城県警察本部及び県庁内関係各課長等で構成）により平成29年2月から8月の間に3回にわたり審議

4 計画の内容

別紙「みやぎ学校安全推進計画」のとおり

5 今後の取組

- (1) 全教職員が計画の内容を理解し、学校安全に関する指導や防災体制の整備等に活用することができるよう、当計画を県教育委員会ホームページに掲載する。
- (2) 防災主任研修会（各教育事務所地域事務所管内別開催）及び校長会等において当計画をテキストとして活用し、防災教育の一層の充実と学校安全体制の再構築を図る。

はじめよう！「地域学校協働活動」について

1 作成の目的

市町村教育委員会，学校，関係者の「地域学校協働活動」に対する理解向上を図り，各市町村における「地域学校協働本部」の組織化を促進する。

〈地域学校協働活動とは〉

幅広い地域住民等の参画を得て，地域全体で子供達の学びや成長を支えるとともに，学校を核とした地域づくりを目指して，地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動。

〈地域学校協働本部とは〉

従来の地域と学校の連携体制を基盤として，より多くのより幅広い層の地域住民，団体等が参画し，緩やかなネットワークを形成することにより，地域学校協働活動を推進する体制。
（文部科学省「地域学校協働活動の推進に向けたガイドライン」から抜粋）

2 作成に当たって

（1）内容について

- 文部科学省の「地域学校協働活動の推進に向けたガイドライン」を基に，これまでの「みやぎの協働教育」を基盤とし，さらに発展させるという視点で内容を構成した。
- 平易な表現を用い，できるだけ具体的事例やイメージ図等を示すことで，経験の浅い地域コーディネーターや地域連携担当等においても内容が理解できるよう工夫した。 ※ 内容についての詳細は，**別紙参照**

（2）冊子の活用について（作成部数：2，000部）

- 市町村教育委員会の担当者，各学校の教職員（地域連携担当），地域コーディネーター等に配布し，普及・啓発を図る。
- 各種会議において，「地域学校協働活動」の推進を図るための説明資料として活用する。

3 「地域学校協働本部」の組織化について

（1）「地域学校協働本部」の組織化の現状（H29.10.17 現在）

- 既存の推進組織を「地域学校協働本部」へと移行し，5市町村で組織化（気仙沼市・柴田町・大和町・大郷町・色麻町）

（2）組織体制の整備についての国及び県の目標

- 国：平成34年度までに，全小中学校区をカバーして「地域学校協働活動」を推進（組織体制の整備）
- 県：平成32年度までに，全35市町村で「地域学校協働本部」を設置（第2期宮城県教育振興基本計画の目標）

冊子の概要とポイント

- | | | |
|--|-------------------------|----|
| 1 | 地域学校協働活動について | 2 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの「みやぎの協働教育」での取組との違い ・ 「地域学校協働活動」による効果（子供・学校・地域） | | |
| 2 | 地域学校協働本部について | 4 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの「みやぎの協働教育」の推進組織との違い ・ 本部の設置の在り方及びコミュニティ・スクールとの連携 | | |
| 3 | 地域学校協働活動の推進体制の整備に向けて | 7 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 体制整備に向けた教育委員会、学校、地域等の具体的役割 ・ 地域学校協働本部の立ち上げプロセス及び構成員の役割 | | |
| 4 | 地域学校協働活動への発展に向けて | 15 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 発展に向けた3つのポイントを踏まえた改善例 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 目標やビジョンの共有 ◆ 一方向の「支援」から双方向の「連携・協働」へ ◆ 個別の活動から総合化・ネットワーク化 | | |
| 5 | 地域学校協働活動の基盤となる活動の充実に向けて | 20 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 「みやぎの協働教育」で推進してきた活動を「地域学校協働活動」へと発展させるための改善のヒント <ul style="list-style-type: none"> ◆ 学校支援活動 ◆ 家庭教育支援活動 ◆ 地域活動 ◆ 放課後子ども教室 | | |
| 6 | 先進事例から学ぶ | 24 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 参考となる他県の先進的な事例（愛知県・高知県）を掲載
 ※ 本県においては、本年度からの取組であることから、先進的に取り組んでいる他県の事例を示した。 | | |
| 7 | 参考資料 | 28 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 各市町村教育委員会及び学校等が推進する際に参考となるワークシートや計画例、要綱例等を掲載 | | |
| 8 | 参考情報（関係法規・国及び件の施策等） | 34 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 各市町村教育委員会及び学校が、「地域学校協働活動」を推進するに当たり、その根拠となる国及び県の施策や法令等を掲載 | | |

「第55回全国防具付空手道選手権大会」へ出場した宮城県防具付空手道連盟の選手及び関係者が副知事を表敬訪問しました。
（担当課：スポーツ健康課）

「第55回全国防具付空手道選手権大会」で優秀な成績を収めた、宮城県防具付空手道連盟の選手及び関係者が、その報告のため副知事を表敬訪問しました。

【概要】

□ 期 日 平成29年10月12日（木）

16時から16時20分まで

□ 場 所 県庁行政庁舎4階庁議室

□ 大会成績

組手個人	優勝	9名	準優勝	9名	第3位	11名
組手団体	優勝	2チーム	準優勝	1チーム	第3位	2チーム

■ 第55回全国防具付空手道選手権大会

日 時 平成29年9月23日（土）

開催地 東京都足立区 東京武道館

1



平成29年度 高校生ものづくりコンテスト宮城県大会（化学分析部門）を開催しました。

（担当課：高校教育課・宮城県工業高等学校）

「ものづくり」を学ぶ高校生の技能・技術の向上を図るとともに、県民のものづくりへの関心を高めることを目的に「高校生ものづくりコンテスト」宮城県大会化学分析部門を開催しました。

【概要】

□ 期 日 平成29年10月14日（土）
9時30分から15時45分まで

□ 場 所 宮城県工業高等学校

□ 協議内容 キレート滴定法により試料水中のCa及びMgの定量を行うことにより試料水の各硬度を求め、測定結果報告書を提出

□ 参加高校 白石工業高等学校 工業高等学校 古川工業高等学校 石巻工業高等学校 の代表者8名

□ 成 績 1位 宮城県工業高等学校 2年 下屋敷 邦寛
2位 宮城県工業高等学校 2年 馬場田 拓真
3位 宮城県古川工業高等学校 2年 阿部 望愛

2



平成29年度『みやぎ高校生 秋のマナーアップ・キャンペーン』を実施しました。

(担当課：高校教育課)

JR東日本，宮城交通等の公共交通機関等と連携し，高校生が通学等で利用する駅や車内での乗車マナーの向上を図ることを目的としたキャンペーンを実施しました。

【概要】

- 期 日 平成29年10月13日(金)
7時00分から8時00分まで
- 場 所 JR古川駅構内
- 参加者 古川高等学校，古川黎明高等学校，古川工業高等学校，古川学園高等学校，大崎中央高等学校
計5校の代表生徒
- 内 容
◇オープニングセレモニー ◇ティッシュを配布しながらのマナーアップ呼びかけ

3



点字ブロック啓発活動を行いました。

(担当課：特別支援教育室・視覚支援学校)

視覚支援学校生徒及び関係者がJR仙台駅構内等において，視覚障害者の安全な歩行環境づくりのための「点字ブロック啓発活動」を行いました。

【概要】

- 期 日 平成29年10月11日(水)
13時30分から14時20分まで
- 場 所 JR仙台駅構内及び東西自由通路
- 参加者 視覚支援学校生徒(中学部・高等部) 保護者
宮城県視覚障害者福祉協会
仙台市視覚障害者福祉協会
日本盲導犬協会仙台訓練センター
盲導犬ユーザー 等 約50名

4



**宮城県美術館特別展「フィンランド独立100周年記念 フィンランド・デザイン展」の
開会式が行われました。** (担当課：生涯学習課・美術館)

宮城県美術館では、“森と湖の国”として知られるフィンランドの優れたデザインを紹介する特別展「フィンランド独立100周年記念 フィンランド・デザイン展」を12月24日(日)まで開催しています。

初日の10月28日(土)には本館エントランスホールにて開会式が執り行われ、また、県内の大学に在籍する23名の外国人留学生を無料招待する事業も、併せて実施いたしました。

本館エントランスホールと2階展示室入口には自由に椅子の座り心地を体感できる撮影コーナーを設けており、開会から連日たくさんの来館者に御利用いただいています。

【開会式概要】

- 期 日 平成29年10月28日(土) 9時から9時30分まで
- 場 所 宮城県美術館 本館エントランスホール
- 参加者 約100名



5

みやぎ教育の日推進大会を開催しました。

(担当課：総務課)

みやぎ教育の日推進大会は、「みやぎ教育の日を定める条例」が制定された平成17年度の記念式典を含め、毎年、県教育委員会とみやぎ教育の日推進協議会との共催で実施しているもので、今年で13回目を迎えました。

【概 要】

- 日 時 平成29年11月1日(水) 13時30分から16時まで
- 場 所 ホテル白萩「錦の間」
- 内 容

- ◇発表：「地域と学校が連携した持続可能な防災安全教育」大崎市立岩出山小学校 主幹教諭 早坂 潤氏
- ◇アトラクション：「山二小輪太鼓演奏」山元町立山下第二小学校児童
- ◇講演：演題「心の復興とは…」～震災6年目の子どもたち～ 講師：伊藤 克秀氏(宮城県スクールカウンセラー)

6



ルルブル親子スポーツフェスタを開催しました

(担当課：教育企画室)

石巻専修大学にて、ルルブル親子スポーツフェスタを開催しました。日常生活の中で主体的に運動やスポーツに親しむことの大切さを普及啓発するとともに、意識的に運動する習慣の定着促進を図ることを目的とし、親子で楽しく体を動かしながら、「ルルブル(しっかり寝ル・きちんと食ベル・よく遊ブで健やかに伸びル)」を実践しました。

【概要】

- 期 日 平成29年10月29日(日) 10時から15時まで
- 場 所 石巻専修大学
- 参加者 宮城県内の親子約700名
- 内 容
 - ◇高橋千恵美のかけっこクリニック
 - ◇ラッキィ池田と踊っちゃおう!
 - ◇みんなで踊ろう!(女川小学校のみんなと女川体操・ルルブルロックンロール♪)
 - ◇楽天イーグルス親子野球教室
 - ◇ベガルタ仙台親子サッカー教室
 - ◇仙台89ERS親子バスケットボール教室・89ERSチアーズダンス教室
 - ◇体力測定コーナー・ハートウィング♡親子スマイル体操
 - ◇親子ニュースポーツ体験コーナー(協力:NPO法人宮城県レクリエーション協会) 等



みんなで踊ろう!ルルブルロックンロール♪



高橋千恵美のかけっこクリニック



ラッキィ池田と踊っちゃおう!

仙台市教育委員会、LINE株式会社と「みやぎ情報活用能力育成共同プロジェクト事業」の協定締結をしました。

(担当課：教育企画室)

宮城県教育委員会は、仙台市教育委員会・LINE株式会社と協定を締結し、新学習指導要領から新たに導入される内容を含んだ小学校から高等学校までの発達段階に応じた情報活用能力育成の教材作成を行うこととなりました。このような教材の作成を都道府県規模で行うことは、全国初となります。今後は、三者で検討を重ねながら教材を作成し、平成30年夏頃に第一弾を公開予定です。

【概要】

- 期 日 平成29年11月2日(木)
15時30分から16時まで
- 場 所 宮城県行政庁舎4階 庁議室
- 出席者
仙台市教育委員会 大越 裕光 教育長
LINE株式会社 公共政策室 江口 清貴 室長
静岡大学教育学部 塩田 真吾 准教授
宮城県教育委員会 高橋 仁 教育長



岩沼高等学園・小牛田高等学園の生徒がアビリンピック宮城県選手団結団式に参加しました。

(担当課：特別支援教育室・岩沼高等学園・小牛田高等学園)

「第37回全国障害者技能競技大会(アビリンピック)」及び「第55回技能五輪全国大会」宮城県選手団結団式が開催され、岩沼高等学園と小牛田高等学園の生徒が宮城県選手団の一員として参加しました。

【概要】

- 期 日 平成29年11月1日(水)
- 場 所 宮城県庁行政庁舎1階ロビー

結団式では、岩沼高等学園から出場する選手が、選手代表の挨拶をしました。その後、教育長を表敬訪問し、高橋教育長から激励の言葉をかけていただきました。選手は、全国大会では、今までの練習の成果を存分に発揮し、宮城県代表として頑張りたいと話していました。



資料配布(2)

平成30年3月高等学校卒業予定者の就職内定状況(10月末現在)について

	H29.3月末	H29.7月末	H29.8月末	H29.9月末	H29.10月末	前年同月	増減 (当月一前年同月)
内定率	99.0%	—	—	51.2%	73.2%	68.8%	4.4%
男子	99.0%	—	—	52.9%	75.3%	72.1%	3.2%
女子	98.9%	—	—	48.8%	70.1%	64.6%	5.5%
全国平均	99.2%	—	—	—	—	—	—

内訳

卒業者	19,979	19,912	19,870	19,853	19,843	20,088	-245	
進学希望者	14,989	14,895	14,858	14,886	14,975	15,071	-96	
臨時的仕事希望者	232	27	39	70	97	51	46	
進路未定者	76	142	130	77	72	125	-53	
就職希望者	4,682	4,848	4,843	4,820	4,699	4,841	-142	
内訳	県内	3,800	4,204	4,068	3,950	3,836	4,031	-195
	県外	882	644	775	870	863	810	53
	職安・学校紹介	4,075	4,020	3,983	3,941	3,955	4,123	-168
	縁故・自営	230	140	164	186	196	207	-11
	公務員	377	688	696	693	548	511	37
就職内定者	4,633	—	—	2,468	3,438	3,331	107	
内訳	県内	3,753	—	—	1,890	2,699	2,631	68
	県外	880	—	—	578	739	700	39
	職安・学校紹介	4,038	—	—	2,410	3,236	3,165	71
	縁故・自営	224	—	—	58	101	96	5
	公務員	371	—	—	0	101	70	31
就職未内定者	49	—	—	2,352	1,261	1,510	-249	
月間受験者数	57	—	—	3,775	813	824	-11	

【概況】※()内は前年同月

- ① 就職内定率 : 73.2% (68.8%)
- ② 進路希望の割合状況 : 進学 75.5% (75.0%) 就職 23.7% (24.1%)
 臨時的仕事 0.5% (0.3%) 未定 0.4% (0.6%)
- ③ 就職希望者の割合 : 県内 81.6% (83.3%) 県外 18.4% (16.7%)
- ④ 県内外の内定率 : 県内 70.4% (65.3%) 県外 85.6% (86.4%)
- ⑤ 内定者の割合 : 県内 78.5% (79.0%) 県外 21.5% (21.0%)
- ⑥ 学科別内定率

学科別内定率	普通科	農業科	工業科	商業科	水産科	家庭科	福祉科	その他	総合学科
平成29年度	61.0%	83.8%	88.9%	73.5%	74.8%	65.7%	69.8%	57.1%	78.6%
平成28年度	57.7%	72.9%	88.2%	71.3%	66.4%	69.2%	54.2%	46.8%	67.8%

⑦地域別内定状況

地域別内定率	仙台	大和	石巻	塩釜	古川	大河原	白石	築館	迫	気仙沼
平成29年度	70.2%	75.6%	69.0%	68.0%	78.2%	76.3%	88.6%	72.2%	82.6%	67.4%
平成28年度	66.2%	77.3%	64.3%	63.5%	73.9%	62.4%	90.0%	67.9%	68.4%	75.6%

⑧宮城労働局発表 県内求人倍率(9月末現在)(職安学校紹介のみ、ただし支援学校・通信制含む)

	24年3月卒	25年3月卒	26年3月卒	27年3月卒	28年3月卒	29年3月卒	30年3月卒
県内求人数	3,009	5,473	6,643	8,357	8,880	9,383	10,321
県内求職者数	3,098	3,481	3,512	3,459	3,459	3,353	3,984
求人倍率	0.97	1.57	1.89	2.42	2.57	2.80	3.25

第72回国民体育大会の結果について

1 大会概要

		冬季大会		本大会
		スケート・アイスホッケー	スキー	
開催期間	開始日	平成29年 1月27日(金)	平成29年 2月14日(火)	平成29年 9月30日(土)
	最終日	平成29年 1月31日(火)	平成29年 2月17日(金)	平成29年10月10日(火)
開催地		長野県	長野県	愛媛県

2 参加状況

		冬季大会		本大会	全体
		スケート・アイスホッケー	スキー		
参加競技数 (特別競技を含む)		2	1	36	39
参加人員	本部役員	8	7	24	39
	顧問	0	0	7	7
	監督	7	3	74	84
	選手	42	38	526	606
	合計	57	48	631	736

3 成績概況

(1) 総合成績

男女総合(天皇杯)		女子総合(皇后杯)	
34位	842点	37位	462.5点

(2) 直近5年間の開催地と宮城県の状況

開催地	H25 東京	H26 長崎	H27 和歌山	H28 岩手	H29 愛媛
天皇杯 順位	21	25	23	24	34
得点	955	934	956.5	948	842

(3) 東北各県の状況

県	青森	岩手	秋田	山形	福島	宮城
天皇杯 順位	35	14	20	31	41	34
得点	827.5	1125	989	873.5	768	842

問い合わせ先 〒980-8423 宮城県仙台市青葉区本町三丁目8番1号

平成29年度全国高等学校総合体育大会 宮城県実行委員会事務局（宮城県教育庁全国高校総体推進室内） TEL：022（211）3604

第6回高校生活動推進委員会を開催しました。

平成29年10月4日（水曜日）本町分庁舎において、「第6回高校生活動推進委員会」を開催しました。

推進委員会に先立ち、実行委員会会長である高橋教育長に、南東北インターハイにおける高校生活動の終了報告を行いました。高橋教育長からは、「推進委員会の生徒のみなさんには、平成27年12月24日のキックオフイベントからインターハイ終了に至るまで、多方面において活躍してもらいました。また、宮城県内91校の学校サポート委員会が、自分たちの学校でのPR活動や駅案内活動等、地域の方々と協力し合いながら活動されていたこと、大会運営補助活動を始めとする『する・みる・支える』の『支える活動』に力を尽くしてもらったことに感謝申し上げます。」とねぎらいのお言葉をいただきました。



推進委員会では、今年度実施した各学校サポート委員会、推進委員会、県及び会場地市町からの要請事業のそれぞれについての活動報告、そして平成30年度全国高等学校総合体育大会300日前イベント～「友情の花の種伝達式」～及び、高校生活動記録集について各担当から報告がなされました。

会の後半では、3年間の高校生活動の様子を映像で見ながらこれまでの活動を振り返り、「これからの部活動を支える活動」というテーマでグループディスカッションを行いました。①PR活動を行ってみてどうだったか②今後の活動でどのようなことができるのかという2点について、生徒・先生が小グループに分かれ、それぞれがそれぞれの立場で南東北インターハイに向け行ったPR活動等を振り返り、今後の活動について意見交換を行いました。グループディスカッションの報告では、生徒目線の意見だけでなく、先生方の視点での反省点や改善点なども聞くことができました。

第6回の高校生活動推進委員会をもって、推進委員会は解散となりました。これまで3年間で培ったたくさんの経験を、今後の生活に活かしていくようにみなさん頑張りましょう。



総合開会式の報告をしました



グループごとにそれぞれの意見を出し合いました



先生方もこれまでの活動を振り返りました

友情の花の種伝達式に参加しました。

平成29年11月4日（土曜日）に三重県鈴鹿市のイオンモール鈴鹿で行われた「2018 彩る感動 東海総体300日前イベント」に宮城県高校生活動推進委員会委員長の松橋七海さん（仙台三桜）が宮城県の代表として参加をしました。

毎年インターハイの会場は、たくさんの花で彩られています。これは、昭和52年に岡山県で開催されたインターハイにおいて、花を通じて心の交流をしようと、地元の高校生がサルビアとマリーゴールドの花で会場を飾ったことから始まったものです。また、その花の種が、「友情の花の種」として、毎年、インターハイ開催地に引き継がれています。

今年は「2018彩る感動 東海総体300日前イベント」の中で友情の花の種伝達式が行われました。



伝達式では、今年度開催地の南東北3県の推進委員から、来年度開催地の東海地区4県の推進委員へ花の種を伝達しました。南東北の代表として山形県の樋口響推進委員長から「東海の空に、たくさんの絆の花を咲かせてください」と言葉を贈り、東海地区代表として三重県の推進委員長からは「東海地区4県が一丸となって来年度の大会を成功させます」と決意の言葉がありました。



花の種を伝達しました!



東海地区のみなさんと

300日前イベントでは、三重県の高校生によるパフォーマンスや子どもたちの合唱、バルセロナ五輪柔道銀メダリストである小川直也さんのトークイベントなどが行われました。会場は高校生をはじめ大人から子どもまでたくさんの人で賑わい、東海総体を大いにPRできたイベントだったと思います。

来年度の東海総体は、下記の日程・会場で開催されます。東海総体が大いに盛り上がるよう、そして素晴らしい大会となるよう、私たちも応援をしていきましょう。



平成30年度全国高等学校総合体育大会

にーまるいち はち

2018 彩る感動 東海総体

翔べ誰よりも高く東海の空へ

開催期間: 2018年7月26日(木)~8月20日(月)

ボクシング

ホッケー

空手道

アーチェリー

カヌー

体操

新体操

サッカー(女子)

バドミントン

相撲

弓道

自転車競技

水泳(飛込)

バスケットボール

卓球

陸上競技

水泳(水球)

バレーボール

水泳(競泳)

ボート

フェンシング

少林寺拳法

ソフトテニス

ハンドボール

サッカー(男子)

ソフトボール

柔道

剣道

レスリング

テニス

登山

ウエイトリフティング

なぎなた

平成30年度全国高等学校総合体育大会は、平成30年7月26日(木曜日)から8月20日(月曜日)の日程で、三重県、岐阜県、静岡県、愛知県の東海4県を会場に開催されます。(ヨット競技は和歌山県開催)

総合開会式は8月1日(水曜日)三重県伊勢市にある

「**三重県営サンアリーナ**」を会場に行われます。

来年度の『2018彩る感動東海総体』への出場を目指し、

また、優勝を目指し、これからも

頑張れ! 宮城の高校生!!



©インターハイ



資料配布 (5)

東日本大震災復興祈念特別展

東大寺と東北

復興を支えた人々の祈り



東北歴史博物館

宮城県多賀城市高崎1-22-1 Tel.022-368-0106
JR 東北本線「国府多賀城駅」下車すぐ(仙台駅から14分)

2018年 4月28日(土) - 6月24日(日) 午前9:30～午後5:00 (入館は午後4:30まで)
休館日/毎週月曜日(但し、4月30日は開館)

◎主催/復興祈念-東大寺実行委員会(東北歴史博物館・河北新報社・仙台放送・日本経済新聞社・多賀城市) ◎共催/宮城県、多賀城市教育委員会、NHK仙台放送局

◎特別協力/華嚴宗大本山東大寺 ◎学術協力/奈良国立博物館 ◎協力/東日本旅客鉄道仙台支社ほか(予定)

◎後援/東北経済連合会、東北観光推進機構、東北市長会ほか

背景/東大寺大仏殿(撮影:三好和義) 右下/国宝 重源上人坐像 東大寺蔵(画像提供:奈良国立博物館 撮影:佐々木香輔) 左下/重文 公慶上人坐像 東大寺蔵(画像提供:奈良国立博物館 撮影:森村欣司)

東大寺と東北

二〇一二年に発生した東日本大震災は、東北地方沿岸部を中心に大きな被害をもたらしました。今もなお被災地では皆が一丸となって、東北の再生と発展に向けて全力で復興に取り組んでいます。

こうした中、東北歴史博物館（宮城県多賀城市）で、多賀城市と友好都市関係にある奈良市の名刹、華嚴宗大本山東大寺の特別な協力を得て、東日本大震災からの復興を祈念する展覧会を開催する運びとなりました。

奈良時代に創建された東大寺は、その長い歴史の中で、二度にわたる災禍で大仏（盧舎那大仏）や伽藍の焼失と復興を繰り返しています。源平の争乱の節、平重衡の南都焼き討ちによって大仏殿はもとより、堂塔伽藍の大半が焼失しましたが、鎌倉時代に重源上人が中心となって民衆とともに復興を成し遂げました。しかし、戦国時代には再び奈良が争乱の舞台となり、中心伽藍のほとんどが焼失。大仏は百年以上も雨ざらしのままとなりましたが、江戸時代に公慶上人が全国を勧進し、多くの人々の力を得ながら再興が実現しました。その復興は新たな文化や歴史をも創造し、人々に希望と勇気を与えてきました。

東大寺や東北地方に残されてきた数々の史料や寺宝の展示を通して、東大寺の歴史と復興の道のりが、震災からの一日も早い復興を願う東北の人々にとって、「未来への道標」となることを願って、本展を開催します。

復興祈念「東大寺展実行委員会



① 国宝 弥勒仏坐像 東大寺蔵 ② 重文 四聖御影（永和本） 東大寺蔵 ③ 国宝 誕生釈迦立像及び灌仏盤 東大寺蔵 ④ 国宝 金銅八角燈籠火袋羽目板 東大寺蔵
⑤ 重文 伎楽面 醉胡従（大仏開眼供養会所用） 東大寺蔵 ⑥ 大仏螺髪（勧進用） 東大寺蔵 ⑦ 重文 五劫思惟阿弥陀如来坐像 東大寺蔵 ⑧ 重文 五劫思惟阿弥陀如来坐像 五劫院蔵
⑨ 「最勝王経精講」木簡 江平遺跡（福島県玉川村） 福島県文化財センター蔵 ⑩ 復興鬼瓦 特別史跡多賀城跡 宮城県多賀城跡調査研究所蔵 ⑪ 復興瓦 特別史跡多賀城跡 宮城県多賀城跡調査研究所蔵

①②③/画像提供：奈良国立博物館、撮影：佐々木香輔 ④⑤⑥⑦⑧/画像提供：奈良国立博物館、撮影：森村欣司

同時開催



小泉淳作画 東大寺本坊襖絵「本坊の桜」

「東大寺・奈良を彩る花の襖絵展」

- 会期 / 2018年4月7日(土)～5月27日(日)
午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 休館日 / 毎週火曜日
- 会場 / TFUギャラリー Mini Mori (ミニモリ)
東北福祉大学仙台駅東口キャンパス内
宮城県仙台市宮城野区榴岡2-5-26

2010年に光明皇后1250年御遠忌法要を記念して、故小泉淳作画伯が東大寺に奉納した本坊襖絵40面のうち、「蓮」や「桜」を描いた32面を展示。盧舎那大仏を教主とする『華嚴経』の世界観にも通じ、生命感にあふれた襖絵を紹介し、また榊莫山・杉本健吉・須田廻太・三好和義ら日本を代表する書家・画家・写真家による東大寺の境内画・写真もあわせて展示します。



- 【JR線をご利用の場合】
- JR東北本線「国府多賀城駅」下車すぐ(仙台駅から14分)
 - JR仙石線「多賀城駅」下車、徒歩約25分、タクシー約10分
- 【お車をご利用の場合】
- 三陸自動車道「多賀城1.C」から約5分
 - 国道4号線苦竹インターから国道45号線を塩釜方向に8km(約25分)
※無料駐車場あり(普通車191台・大型バス10台)
- 【東京方面からご来場の場合】
- JR東北新幹線で仙台へ(東京駅から約1時間30分)
JR東北本線に乗り換え、「国府多賀城駅」下車すぐ(仙台駅から14分)